

令和3年度 第1回小山市民フォーラム 議事録

1. 日時 令和3年9月25日(土) 14:00~17:10
2. 会場 事務局 小山市役所2階大会議室2ab
参加者 自宅等(ウェブ会議システム(zoom)により参加)
- 3 参加者等
 - (1) 運営委員
阿久津 治(委員長)、佐藤 佑子(副委員長)、海老沼 和彦、平野 明宏
戎 奈央、関口 絵里加
 - (2) 参加者 25名
 - (3) 小山市 浅野 正富 市長、雲井 富雄 副市長、坪野谷 統勇総合政策部長、目徳 有一 産業観光部長、須郷 幹雄 都市整備部長、舘野 雅俊 商業観光課長、村上 賢介 まちづくり推進課長、松本 道雄 官民連携推進室長、星場 崇徳 まちなか商業推進係長、渡邊 賢二 まちなか再生推進係長
 - (4) 小山市事務局 篠原 正 シティプロモーション課長、柿崎 泰延 シティプロモーション係長、松本 卓、青木 真央、福田 直行、藤井 優
- 4 テーマ
小山駅周辺のまちづくり「あなたの意見で小山が変わる!?~小山駅周辺改革~」
- 5 スケジュール
開会(司会)
開会のあいさつ(市長)
運営委員長あいさつ、運営委員紹介
市出席者紹介(副市長他3部長)
意見交換
テーマ①まちなか商業の推進(進行役 関口委員・平野委員)
 - ・商業観光課の取り組み説明
 - ・参加者、市長等との意見交換休憩
 - ・DVD視聴(小山ビデオクラブ制作「三夜通り まちから 街へ」(小山 駅西口30年前の様子))テーマ②ウォーカブルなまちづくり(進行役 阿久津委員長・戎委員)
 - ・まちづくり推進課の取り組み説明
 - ・参加者、市長等の意見交換テーマ③次回以降に取り上げて欲しいテーマ(進行役 佐藤副委員長、海老沼委員)
 - ・参加者から討論テーマに関する発言閉会のあいさつ(市長)
閉会(司会)

6 発言

○事務局・柿崎（参加者接続確認・注意事項）

皆さんこんにちは。シティプロモーション課の柿崎と申します。はじめに、注意事項をご説明させていただきますので、こちらをご覧ください。

- ・マイクは「ミュート」、カメラは映像が映るようにしてご参加ください
- ・表示名は、あらかじめ事務局からご案内した番号(受付番号)・氏名(苗字)の順に表示をお願いします
- ・発言は、画面の「リアクション😊」から「👏手を挙げる」のボタンを押してください。名前をお呼びした方は、ホスト側からミュートを解除します。
- ・お名前をフルネームでおっしゃってから、発言は2分以内でお願いいたします。
- ・途中、休憩・退席していただいて結構です。
- ・本日の市民フォーラムは、録画させていただき、後日テレビ小山放送のコミュニティチャンネルでの放送と、小山市公式YouTubeにより配信される予定です。最後に広報おやまへの記事用に zoom 画面を撮影させていただきますのでご了承ください。

音が聞こえない方いらっしゃいますでしょうか。マイクを使いながら進めさせていただきながら進めますのでよろしく願いいたします。ほかの方、大丈夫でしょうか。お待ちください。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

それでは皆さま、こんにちは。私は、小山市民フォーラムの司会を務めますシティプロモーション課の篠原でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、栃木県に緊急事態宣言が出されており、市民フォーラムについて、ウェブ会議システム（Zoom）により、開催させていただきます。

参加者の皆さまには、至らぬ点もありご不便をおかけするかもしれませんが、進行に、ご協力いただきますようお願い申し上げます。それでは、第1回小山市民フォーラムを開催いたします。開会に当たりまして、浅野正富小山市長よりご挨拶を申し上げます。

○浅野市長（挨拶）

皆さんこんにちは。今日は、令和3年度、1回目の小山市民フォーラムになります。小山市として市民フォーラムをはじめて開催しましたが、令和2年度でしたが今年の3月20日、今日は2回目の市民フォーラムになります。1回目参加していただいた方、そして視聴された方から、いろいろなご意見がありましたので、市のシティプロモーション課あるいは、運営委員の方々、2回目は準備ご検討されてきました。ところが緊急事態宣言ということで、急遽オンラインでやることになりました。自宅にいる市民の方とオンラインで市役所をつないで、このような会議形式でやるというのは、小山市にとってはじめてなことですので、たいへん不慣れということで不手際があるかと思えます。今日はそこらへんのところ

をご容赦いただきながら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3月に行ひました1回目のフォーラムでは、「都市と田園が調和した持続可能なまち」がテーマでした。今日は、2回目ですが、「小山駅周辺のまちづくり」で、1回目、2回目ともまちづくりに関連したテーマになりました。やはり市民の方々の中で、このまちづくりには大変関心が高いのではないかとのことでの、テーマ選定になっておひます。

全国では、1700を超える自治体がございます。ひとつひとつがかけがいのない自治体であり、個性がある自治体になるわけで、まちづくりというのはやはり、どこかの真似をすればいいとか、大きな建物・施設を作れば、まちづくりができるというのではなくて、そこに住まれているの方々、関係するの方々、そういう方々が知恵を絞って、オリジナルのものを求めていくことしか、真のまちづくりはできないのかなと思ひておひます。

市民の関心が低くて、良いまちづくりができることはないんだろうということで、やはり、小山市もしっかりとしたまちづくりをしていくためには、市民の皆様に関心を持っていただく、意見を出し合ひていただく、最初はてんでバラバラな意見であっても、何回も話あつていくうちに、方向性を見出していく、そして集約されてきた意見をもとに、市民の方、事業者の方、行政、それぞれの役割分担をしながら具体的なまちづくりに取り組む、そういうことによつて、住んでいる方のまとめるまちが作られていくんだろう、と考へておひます。

今、小山市は、2年間にわたつて駅周辺のまちづくりプラン作りに取り組んでおひます。この夏には市民の方々に、小山駅西口、東口について、それぞれアンケートに協力していただきました。西口、東口とも900名を超えるの方々、アンケートに協ひていただひておひますので、おそらくアンケートに協力していただひた方は、千数百名に及ぶのかなと思ひておひます。市民の方の1%くらいの方が、アンケートに協力していただきました。

そして11月には、11月22日・23日、2日間にわたつて、計4回のワークショップ、参加しようと思ひの方は、申し込んでいただければ参加できるんですけども、ワークショップを開催し、いろいろな意見を交わしてもらいながら、来年にはプランの素案を作り、シンポジウムなども開催して、市民の方々の意見をもとにしたまちづくりプランを策定していきたいと考へておひます。

今回の市民フォーラムで、皆様に議論していただくものについても、まちづくりプランに当然活かしていくこととなります。また今日のフォーラムが終わつた後に、皆様のご意見をいただきながら、場合によれば、このまちづくりプランが完了するまでの間にもう一度、この市民フォーラムで、まちづくりのことについて意見してもよいのかなと思ひておひます。

私は、市長に就任する前から、市民が市政の主人公、主役にならなければならない、と思ひてまいりました。まちづくりをはじめ、あらゆる分野について、市民同士、そして市民と行政の間、議会の間、活発に意見をかわして、それが市政に反映されていく、小山市をそういうまちにしていきたい、と考へています。

意見交換の一つの方法として、やはりこの市民フォーラム、非常に重要な役割を果たしていくと思ひておひます。今後もいろいろなテーマで皆様と意見交換していきたいと思ひてお

りますが、まずは、今日の駅周辺のまちづくりについて、しっかり意見交換をお願いしたい
と思います。どうぞ、長時間になりますが、よろしくお願いいたします。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

ありがとうございました。

続きまして、本日の参加者をご紹介します。本日は、28歳から68歳の26名の皆さま
にご参加いただきました。ありがとうございます。またたいへん申し訳ございませんが、
実際54名の参加がございましたが、U7環境がそろっていない方28名の方につきまして
も、ご参加はかないませんでした。事前にご意見をいただいておりますので、市民フォー
ラムの中でご紹介させていただきます。どうぞ宜しくお願いします。

続きまして、運営委員として企画運営にご尽力いただいております6名の市民の方を代表
して、阿久津委員長よりご挨拶をお願いします。

○阿久津運営委員長

あらためまして、こんにちは。小山市民フォーラム運営委員会委員長を仰せつかっており
ます、阿久津治と申します。普段は小山駅西口青年部活性化委員会、小山商工会議所青年部
にも所属しております。本日、フォーラムということで、本来であれば先ほど市長からもお
話あったんですが、大きな会場でみんなと顔を合わせながら、お話することが良かったと思
うんですが、やはりこの緊急事態宣言という中で、何かそれでもできることで、皆さんから
話を聞いたら、このオンラインという形になりました。

このzoomだからこそできること、できないこともたくさんあると思います。社会もこのコ
ロナ禍において、目まぐるしく変わっていきます。我々まちづくりする側にとっても、この
新しいいろんな時代の中で、対応できる力を持ち話をしないといけない思います。たくさん
のご意見あらかじめ見させていただきましたが、すごく貴重なご意見がたくさんありました
ので、長時間になると思いますが、楽しく3時間やっていければと思っておりますので、ど
うかよろしくお願いいたします。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

ありがとうございました。そのほかの運営委員様につきましては、お名前をご紹介させて
いただきます。

副委員長 佐藤 佑子（さとう ゆうこ）様、委員 海老沼 和彦（えびぬま かずひこ）
様、委員 平野 明宏（ひらの あきひろ）様、委員 関口 絵里加（せきぐち えりか）
様、委員 戎 奈央（えびす なお）様です。

続きまして、市側の出席者を紹介します。浅野正富市長、雲井副市長、坪野谷総合政策部
長、テーマ協力部として、目徳産業観光部長、須郷都市整備部長にご出席いただいております。
よろしくお願いいたします。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

それでは、本日の予定をご案内いたします。本日は、テーマ「小山駅周辺のまちづくり」あなたの意見で小山が変わる！？～小山駅周辺改革～とし、テーマ①「まちなか商業の推進」70分、10分休憩をはさみ、②「ウォーカブルなまちづくり」、最後に③「次回以降取り上げてほしいテーマ」で、ご意見をいただきます。よろしくお願いいたします。

テーマ①②に関しては皆様に資料を送らせていただいておりますが、最初に担当部署から約5分の説明を行い、テーマ1つごとに、運営委員を進行役に、約55分、参加者全員の皆さまからテーマに関するご意見をいただき、市長及び運営委員の皆様と意見交換を行いたいと思っております。

発言を希望される方は、zoom機能「手を挙げる」をお願いいたします。

ご発言の際に、ホスト側からマイクをオンにさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、ここからは運営委員の皆様に進捗をお願いいたします。テーマ①「まちなか商業の推進」を平野委員・関口委員よろしくお願いいたします。

○平野委員

運営委員の平野です。どうぞよろしくお願いいたします。ここからは私と関口が進行を務めさせていただきます。限られた時間内でありますので、多くのご意見により有意義な意見交換となりますよう、進行にご協力をお願いします。

まず小テーマ①「まちなか商業の推進」です。このテーマに関して、担当部署である商業観光課から、ご説明をお願いいたします。

○館野商業観光課長

商業観光課の館野と申します。よろしくお願いいたします。みなさんにお配りした資料、また画面のほうで共有させていただいておりますので、こちらをご覧くださいながら、お願いしたいと思います。

まず、はじめにのところでございますが、現在の、小山駅周辺にいたるまでの状況となりますが、小山駅周辺につきましては、古くは日光街道中心に宿場町として、栄えまして、小山駅の玄関口である改札も西口だけにあったものが、東口の区画整理事業にあわせて、東口改札ができているといった状況でございます。また大型店の出店状況も報告させていただいております。西口を中心に商業の発展を経まして、東口の開発に伴い、東口へ出店が進んだことがわかるかと思えます。キンカ堂小山店、翌年に長崎屋小山店など、駅西口から東口へと移っております。キンカ堂小山店のオープン当初につきましては、小山駅から毎日行列が出来まして、沿道の店舗にも立ち寄り、好循環が生まれまして、駅周辺の商店も活性化していたということでございます。現在の大型店は郊外へ立地するようになってございまして、中心市街地にありました大型店も相次ぎ閉店となりまして、西口の周辺の人口につきましても、昭和45年9300人から、平成19年には、半分以下の4100人まで減少するなど、新幹線の停車する駅でありながら、駅前が遠ざかっているところでございます。大型店に関し

ていいますと、商店会の数も約 20 年前は 12 の商店会がございました。駅西に 10、東に 2 の商店会がございました。それがいまは 7 の商店会になっています。駅西に 5、東に 2 と、人口減少になって、商店会の数も減少している状況でございます。

このような状況のなか、現在、市で実施している取り組みをご紹介させていただきたいと思えます。①の中心市街地商業出店促進事業でございます。こちらは、駅西口商業の活性化、そして駅のメイン通りでございます、祇園城通り、そちらの空き店舗解消するために、実施しているものでございます。空き店舗活用した新規出店に対しまして、家賃を年間 60 万円上限、内装改造費を 100 万円を上限に支援をしているものでございます。平成 17 年に制度を開始して以降、32 店舗が補助を活用してございます。小山駅から西に観晃橋まで、道路赤い部分ですね、そちら上の赤い部分が祇園城通り、またその下のロブレ前にございます、632 の北側、こちらが阿夫利通りでございます。阿夫利通りにつきましては、平成 29 年から補助対象としたところでございます。参考までに、祇園城通りと阿夫利通りの 1 階部分の店舗数につきましては、約 80 店舗ほどでございます。現在の状況としましては、飲食が 27、小売りが 18、事務所などが 9 と、飲食が一番多い状況となっております。

次に②のまちの駅運営でございます。こちら、小山市まちの駅、思季彩館につきましては、平成 17 年に小山駅西口商店街連絡協議会から、旧八百忠敷地を中心市街地の活性化拠点として、活用してほしいとの要望を受けまして、歴史的回遊拠点、ブランドの情報発信、交流拠点として、平成 19 年に開設したものでございます。当初は小山商工会議所が運営をしてございまして、そのあと、観光協会、そしていまは指定管理者として、Sun フーズ株式会社、そちらが運営をしてございます。昨年からコロナ禍によりまして、全体的にイベント開催ができない中でございます、趣向を凝らした企画をしていただいているところでございますが、本年の 6 月には、Sun フーズ株式会社におきまして、ハト麦や米、大麦を使った地ビールを製造するなど、地元に着した取り組みを進めていただいているところでございます。下の表が思季彩館の来客数でございます。青線が昨年、令和 2 年度でございます、こちらのコロナ禍の状況によりまして、全体的に低くなっている状況がご覧いただけると思えます。特に 7 月が低い状況でございますが、こちらにつきましては、祇園祭また花火大会、そういったイベントがですね、できなかったことによりまして、影響が出ているのかと考えます。

次に③のロブレでございます。昭和期の旧市街地の状況、こちらにつきましては、道路が緊急車両も通過できないといった状況でございました。そういった部分を改善しよう、また都市景観の整備、中心市街地の活性化のために再開発事業に取り組んできたものでございます。平成 6 年に核テナントとしてイズミヤがオープンしまして、そのあと時が過ぎまして、平成 27 年には、イズミヤが閉店、再生に取り組むこととなりました。地下 1 階から 4 階まで、こちらが商業スペース、5 階 6 階集いの場として、再生を進めてきているところでございます。令和元年には、出店率が 9 割を超えたところでございますが、こちらにつきましてもコロナの関係で、出店率が現在 77%まで、減少しているところでございます。ロブレにつきましては、小山駅周辺における商業の集客施設としてとらえております。これまで同様支援

を継続しているところでございます。

最後に④で、中心市街地で行われます、イベントを載せさせていただいております。年間を通じまして、このように多くのイベントが開催されてきておりました。こちらにつきましても、コロナの影響によりまして、中止や開催内容の変更をして、現在進めているところでございます。例年ですね、10月開催されております、西口まつりにつきましては、今年度はコロナ対策をして実施することで、現在進んでおまして、10月17日、日曜日に、午前10時から午後4時までで、今年度、開催ということでございます。ぜひ皆様にも足を運んでいただければと思います。イベントにつきましては、ご覧のようにそのほか実行委員会で開催をされているところでございます。これは、商業者の方を中心に皆様の意見を伺いながら、取り入れながら、賑わいを引き起したいと考えているところでございます。なかなか集客できるもの、施策で考えるものは難しい、そういった中で実行委員会で努力いただきまして、現在進めているとこととでございます。商業観光課としましては、地元の商業者の皆様、また市民の皆様と、いろいろ検討しながらこういった事項も取り組んでいきたいと考えてございますので、本日、フォーラムに参加していただいている皆様の意見もいただきながら、今後の事業展開をに続けていきたいと思っております。以上となります。よろしくお願いいたします。

○平野委員

ありがとうございました。事前に皆様からご意見をいただいておりますので、事務局からご紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局・柿崎

シティプロモーション課の柿崎からご説明させていただきます。

まちなか商業の推進につきましては、全体で16名の方からご意見をいただいております。欠席者の方3名のご紹介をさせていただきます。16番の方は、旧長崎屋の食堂から新幹線が見えたので、同じくロブレからも同じくできないかとの意見をいただいております。20番目の方ですと、テレワークをする際、たべるお店が少ない、買い物も不便な状況であるとのことです。22番の方ですと、これからまちづくりをするにあたって、情報がそろわないとうまくいかない。10年以上先を見据えてやらないとうまくいかないとのこと。簡単でございますが意見の紹介とさせていただきます。

○平野委員

ありがとうございました。まずは、自分から意見を発言させていただきます。事前にいただいた皆様のご意見を読ませていただいて、やはり目に付くのが、現状、街並みがさみしい、少し魅力がない、といった意見が多くみられました。私も小山生まれ、小山育ち、子供のころは家族で買い物をしたり食事をしたりは、小山駅周辺でしていた思い出があるんですけども、現状の小山駅周辺を見ますと、なかなか家族を連れてみんなで遊びにくるのは少し難しいのかと感じております。

関口さんは、ご意見いかがでしょうか。

○関口委員

あらためまして、白鷗大学法学部4年の関口絵里加と申します。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。私も皆様のご意見を読ませていただきまして、若い世代という言葉をよく見受けられました。私は白鷗大学現役の学生ということで、若い世代を代表して皆様のご意見をお聞きしながら、私の意見を述べたいと思います。私も2年前に小山に住み始めて、イベントであったり、小山ブランドを着たり試してみたり、参加・参画をしてまいりました。私自身も小山駅周辺を歩いてみて、もう少しこうだったらいいなと感じたり、私の身の回りの友人も小山駅もう少しこうだったらいいのに、という理想を語ってくれたりしました。私は実際、大行寺キャンパスまで駅を利用する学生が歩いて通いたっていうふうにも思ってもらえるような、そんな駅周辺を作れたらと考えております。本日は皆様のご意見を参考にさせていただきながら、少しでも皆様のご意見が現実になるようにお手伝いさせていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○平野委員

ありがとうございます。それでは、さっそく、参加者の皆様と意見交換させていただきます。なお、適宜浅野市長からご意見をいただき、市側から補足説明やご意見をいただきます。発言を希望される方は、挙手をお願いします。

○参加者

こんにちは。実は浅野市長さんには、昨年11月、私が商工会議所の地域活性化委員会の委員長をやらせていただく経緯がありまして、雲井副市長さんと一緒にきていただきました。

その中でも、まちづくりの話をいろいろさせていただいたんですが、今日はせっかくの機会ですので、若い方もいらっしゃいますので、ぜひいろんな話をさせていただきます。

私自身実は、西口に生まれて育ちました。今の仕事も、明治時代から戦前までは、米とか肥料を販売させていただいております。戦後、衣料品の小売業で、現在まで。ちょうど私で7代目になります。そういう経緯の中で小山市の商業長年見てきて、さみしい商業地区になっちゃったというのが感想です。

昔は、老舗を含めてたくさんお店があったのですが、現在、ご存じのように残っているお店は少なくなったのが現状です。ただ私自身ずっと小山で商売してきて、小山の良さよくわかってますし、また自分で今まで継続してきた自分の努力もあると思うんですが、大型店の出店以外に自分の店の努力も必要と思うんですが、私がいつも思ってるのは、小山市全体が力があって活性化してないと商業はなかなか難しいと思います。そのために、西口、非常に、おかげさまでマンション建ちました。そういう形で、少ないんですが人口も増えてます。

また駅前を中心に白鷗大学のみなさんが来ていただけてるので、非常に若い人口も増えてます。実は商売っていうのは、商業っていうのは人がいないとできない。当然ですね。イン

ターネットでやる商売っていうのはあるんですが、人が集まって集えるのが一番。私が常に思ってるのは、これからは「モノ」よりも「コト」、よく言われますが、そういう意味では、まちを歩けるまちづくり。そこにいらっしゃる阿久津君、阿久津さんなんか一番頑張ってますね、中心部で。我々も一緒にお手伝いしてるんですが。商業を考えると今までの視点を変えて、「コト」はなんなんだっていう、非常に難しいですね。「コト」をやることで、利益を出して商業につなげる、これもまた非常に難しいと思います。ただ、みんなと一緒にそういう形で、いろんなイベントやりながら、探ってるうちに、新しい流れができるのかなと感じております。それと一点、私の意見で書いたんですが、西口もいいんですが、ぜひ東口も。せっかく白鷗大学立派なものがありましたけども、イトーヨーカドーが残念ながら3月で閉店され、自分の店もそこにあったんですが。そういう意味では、東口の活性化のために、たいへんな事業になると思うんですけども、JRの貨物跡地、そのほかイトーヨーカドーの跡地、ヤマダ電機さんも新幹線の駅前では非常に小さなお店です。定借地ということで、将来何らかの形で変更になる。この機会に長期展望になるんですが、東口と西口とのバランス、そんなことも今後検討していただきたい。ぜひ市長さんをお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○平野委員

ありがとうございました。ご意見いただいたように西口だけではなく、東口も併せて検討していくことが必要だと思いました。関口さん、白鷗大学というお話あり、なにかどうですか。

○関口委員

白鷗大学生として、意見させていただくと、大学生となると、栃木県内だけでなく県外からやってくる学生も多いと思うので、外からきた学生に対して、小山ってこういうまちなんだよと伝えるためにも、西口と東口のバランスがとれた駅周辺を作っていきたいなと感じております。大学生が大人になって、小山を離れたとしてもまた訪れたいという持続可能性をもっと作っていったらなと感じています。ありがとうございました。

○平野委員

次ご意見のある方お願いいたします。

○参加者

45番の間々田に住んでおります、平田と申します。いつもお世話になります。関口さんにもお伺いしたいと思い手を挙げさせていただきました。私はずっと小山いて、42歳なんですが、前、白鷗大学が西口というか、川を渡って向こうにあったときと、いま東口側に新しく建てて、われわれの世代からみさせていただくと、どうしても駅おりたら皆さんがきれ

い正しく、同じ動きで入られて、授業が終わったらそのまま、優等生なんだと思うんですが、右も左も見ずにそのまま駅に、入られていくっていうのを見てまして、逆にあそこに何か魅力のある小山を伝える、伝え方がわれわれとしてはどうやったらいいのかなと、あまりにも優等生すぎて、そのままよられて、そのまま帰るっていうのを見てるので、なにかあそこに以前の西口であれば、バスで通ってるとしても歩いてる方が大勢いるとか、活気があるようにアクションができたかなと思うんですが、なにか難しい。学生の関口さんからしてどうなのか、どういう形ができたらいいかと、逆にご意見をいただきたくて。手を挙げさせていただきました。ありがとうございます。

○関口委員

貴重なご意見をありがとうございます。私自身も日ごろから考えている問題でして、学生ってキャンパス内を行き来するだけで、そこから外に出ることが、なかなか難しい。実際に小山で行われているイベントであったりとか、駅から離れてしまったりする場所ですと、学生は車を持っていないので、歩いていくとなると、そのまま帰ろうかなとなってしまう傾向があると考えている。駅周辺となると、車を持っている学生も駐車場にとめられて、歩いて周辺を見渡したいって思えるような、景観づくりが必要だと考えているので、若い人たちのもっと必要なと考えられる、カフェや自習スペース、コワーキングスペースみたいなものもうまく取り入れながら、学生にとって有意義な時間が過ごせると思える、そんな建物を作っていけたらと考えております。小山駅周辺は空き家が目立っているので、空き家をまちづくりのベースにしていって、若いトレンドを少しずつ、取り入れたような、幅広い世代に使えるような景観づくりをしていけたらと思っています。簡単ですが以上です。

○参加者

ありがとうございます。

○平野委員

いまの若いご意見を聞いて、市長のご意見を少し聞きたいのですが。

○浅野市長

私が、大学生、東京に通っていましたが、ほとんど授業に出ないで、周辺のいろんな喫茶店とか古本屋とかお店とかをブラブラしたりとか、友人と話し合ったり、大学のキャンパスよりも周辺のほうが、過ごしていた時間が長かったというような、記憶があります。最近学生の方って非常にまじめに授業に出られてるんで、私たちの学生時代とだいぶ違ってきているのかなと思いつつも、皆さん魅力のあるものが、あれば駅と大学の往復だけでなく、立ち寄ることが、あるんだろうと思いますので、そういう魅力ある場所づくりっていうのを考えなきゃいけないと思うんですが、60代の我々が、学生の人たち向けのを考えてもな

なかなかわからないというところでは、学生の方たちと年代の離れていない方たちが、魅力づくりに関わっていただく必要があるのかなと思うんですが、30代、40代の方のなかで、そういうことができないものなのかと気がします。企業するための支援とか、制度的なものであれば当然、行政が考えなくてはならないにしても、そもそも、こういうものを作って学生を呼び込みたいとか、そういうアイデア自体はやはり、30代前後の世代の方に出していただくしかないのかなと思います。

○平野委員

ありがとうございます。続きましてどなたか挙手をお願いいたします。

○参加者

よろしく願いいたします。今年3月に県外から引っ越してきたんですけども、小山市に住み始めて日が浅いんですけど、数か月過ごして感じたんですけど、大学が駅東にあって便利な環境だなと思ったんですが、学生とか人の歩く流動と、車の社会の小山市の作りが、重なってしまっていて、駅前以学生とか送り迎えをどうしてもしなきゃいけないのと、学生、大学生と社会人の方の出勤と重なってすごく、危険だなんて思ったんですよ。なかなか車は出発できなし、人は通るし、交通誘導してくれる方もいらっしやらないし、いつ事故が起きてもおかしくないなっていうのがすごく感じたんですね。駅周辺を活性化するのもいいんですけど、それに伴ってまわりの道路状況とか、人の流れを考えた道路の整備とかも一緒に考えていく必要があるんじゃないかなと。ちょっと話題からそれてしまうんですが、感じました。今後の発展が楽しみです。以上です。

○平野委員

ありがとうございます。やはり車道と歩道を分けた計画とか、みなさんが歩きやすい過ごしやすい環境を作るのは、重要だと思います。次の方挙手をお願いいたします。

○参加者

よろしく願いいたします。私は勤務地がさいたま新都心になりまして、毎日通勤しているんですけど、やはり新都心は人口も多いですので、会社さんもたくさんあります、合同庁舎もありますので、小山に比べると人口の流動はものすごくあるんですけど、小山に帰ってきてほっとする気持ちもあるんですけど、寂しさが感じられますね。新都心との大きな違いが、さいたま新都心の駅っていうのは、ほんの15分歩くなかにスーパーアリナーナもあれば、コンビニもあるし、病院もあるし、庁舎もある、ホテルもある。15分歩く中にもものすごく集約されているんですね。そういったまちづくり、計画的にまちが作られたんで、そういうことにもなるんですけども、小山市は平面的なので、立体的ではない感じがするので、なるべく、お店が離れないような形でいろんな業種があったらいいのかなと思うんですね。ど

うしても次のお店に行くのに、距離があって、歩くというのがちょっと困難といたしますか、車で行きたいとこ行って帰っちゃうみたいな、そういった小山市内を感じますので、せめて駅周辺だけでも、あるってお店によりたいみたいなまちが作れたらいいのかなと思います。

もう一つはですね、娘の受け売りなんですけど、20代の娘の話ですが、ロブレとかそういったところを、世代ごとに入る階を分けるような感じで、お店なんかが入るとうれしいなというふうに言われました。例えば脱毛サロンの大手チェーン店が宇都宮に行かないとない、小山にあったらいいのにといいのと、脱毛サロン行ったら、なぜかカフェに寄りたくなるらしいんですね。カフェがとなりにあったらいいって。ネイルサロンもあったらいいって。ファッションもついでに見られたらいいって。女性のフロアみたいにあったら絶対大学生もよるよって、話してました。余談ですが報告させていただきたいと思います。そんなところです。ありがとうございます。

○平野委員

関口さんいま、脱毛サロン、カフェとかネイルっていうのがでてきましたけども、あったら行ってみたい？

○関口委員

そうですね。2番さんのおっしゃること、ほんとにわたしも共感しております。私自身、私を含め、大学生、若い女性の人たち、定期的に行く場所、そういったところって身近にもっと、行きやすいなと感じられるところあったらいいなと、あると思うので、カフェを近くにおくってというのも、もう1軒よろうかなと繋がったりとか、小山駅周辺でお金を落としてくれる若い女性ももっともって増えると思うんで、そういったジャンルや世代を見ながら、まちづくりするのは、すごくいいことだと考えております。貴重なご意見ありがとうございます。

○平野委員

担当課のほうからも一言コメントいただけますでしょうか。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

産業観光部長から一言ご意見させていただきます。

○目徳産業観光部長

たいへん貴重なご意見だと思います。ありがとうございます。特に後段のジャンルごと世代ごとというのは参考にさせていただきます。どうもありがとうございました。

○平野委員

ありがとうございました。続きましてご意見をお願いいたします。

○参加者

私、間々田に住んでいまして、小山駅のほうには、最近ほとんど行ってません。皆さんのご意見にあるように、寂しい感じがするっていうのと、週末とかに行きたい場所・お店とか正直ないというところがあるかなと思います。このコロナ禍ではありますけど、お昼とか食べに行くっていうことは、ちょっとたまにやってみて、その場合どこ行くかっていうと、遠出をして車を使って、宇都宮のほうに行ったりしているんですけど、そういう遠出したところで、人気店というのがあってそこはいついっても混んでます。あやかるではないんですが、少し小山駅前を活性化するという意味では、人気店を呼び込むっていうのはひとつあるのかなと考えてます。

当然小山駅独自のお店とかも作っていく必要あるんですけど、そのためには、土日とかだけでなく平日も含めて人をどんどん呼び込むのもあるかなと思うんですが、いまマンションとか人が増えてるっていうのもあると思うんですが、それプラスして企業というか働く人も増えていく必要があるなと思ってまして、働く人増やすには2つポイントあるかなって思ってるのが、1つはコロナ禍でテレワークとかどんどん進んできてますけど、私ももともと東京に通っていたんですが、いまは完全テレワークで自宅にいて働いてる形になるんですが、最近ですと、さきほど、コワーキングスペースとか出ましたけども企業のサテライトオフィスとかを作ってそこで働いてもらうっていうのも、進んできていると思ってまして、小山って東京に行くのも便利なんで、小山に住んで東京に通っている人いっぱいいると思うので、サテライトオフィスができれば、そこを企業に使ってもらうとそこに人をどんどん呼び込むっていうのが一つあると思うんです。地元でベンチャー企業を育てる取り組み、市長もおっしゃってましたけども、そういったところもやれば企業もどんどん作られて行って人も集まってくるのかなと思ってまして。いろいろ意見をバラバラ言ってしまったんですが、お店を作るっていうところと人を集めるっていう、2つの観点を同時にやっていくのが必要かなと思ってます。以上です。

○平野委員

ありがとうございます。飲食店が少ないという意見、ほかの方もそういったご意見ありまして、小山駅周辺で食事をしたりとか、今度は駐車場がなかったり、車で移動するっていうと駅周辺ではなくて、郊外にいつってしまうっていうのがあると思います。

また、人を集めるのに企業誘致だったり、サテライトオフィスっていう条件が、ありました。実際こういうのもまだまだ、小山周辺には少ないと思うので、これからどんどんできていけば、人がもっと集まるのかなと感じました。ありがとうございました。

次の方どなたか挙手をお願いいたします。

○参加者

こんにちは。僕は小山出身なんですけども、東京の神楽坂で飲食店をずっとやっています。今、週に2回ほど小山のほうに、実家の畑を借りて農業も始めているので、2回帰ってるんですけども、いま正直自分は、小山で農業やろうかやらないかって迷うくらい小山に魅力をあまり感じてなくて、行くたびに、大学生とか高校生、駅にいる人にアンケート、自分で話しかけて小山ってどういうまちなのか、結構聞きまくってるんですけど、ポジティブな意見聞こうとしても、想像でしか言ってくれないんで、やなこと教えてくださいっていうと、いまもこれ、1冊アンケートとってるノートなんですけど、大抵面白くないとか、何もない、人がいない、つまらない、アルバイトをしたい店がない、学校以外何もない、カフェがない、集まらない、出ていく意味がない、遊び場がないとか、そういうネガティブな意見って結構、素な意見なんで、すごく大学生とか高校生とか、話を聞いてると素直に教えてくれるなあと。

僕は飲食店をやってるから、どういうお店が好きなのっていうと、とりあえず集まるだけでいい、というのがほとんどの答えなんですね。コロナでやっぱり、いま若い子たち、学生さんたちもそうですけど、入学して、2年生とかなったら、この2年間丸々、学校生活もほとんどテレワークだったりとか、そういう状況になると、人と集まらない状況を、いい時代の時に味わえてないから、なおさらそういう意見が強いと思うので、少しでも若い人たちが、気楽に集まる場所、何名の方が言ってました、カフェとかそれだけでいいと思う。それがあっても全然違うはずなんですよ。とりあえず話したいとか、集まりたい、っていう意見は特に一番素直な意見なんで、それを叶えてあげることが、一番いいのかな、若い子たちが動いてると活気は出ますし、うちの店にも大学生来てくれるけど、お店の人もうれしいですもんね、やっぱり。そういう意味で圧倒的に飲食店の少なさは目立ちます。西口も東口も。有名、有名じゃないじゃなくて。とりあえず店がなさすぎるなって感じがします。以上です。

○平野委員

ありがとうございます。カフェが少ないとか、他の方もご意見があったんですけども、週2回小山に帰り、農業をしていますというお話があったんですけども、農業でコミュニティの場を作るとかっていうのはできるのかなっていうのはご意見どうでしょうか。

○参加者 新規就農を目指してやってるんですが、まだ5畝なので、全然規定には達してないので、農業委員会の方とかにも電話したり、話したりとか、小山だけじゃなくて実際僕は、隣の結城市、壬生、上三川いろんなところに行って、農業委員会の方とか、そのあたりの学生にも声をかけてるんですけど、逆に結城市の子とかは、やること結城市ないから小山に行くっていうんですね。でも、小山市の人はやることがないっていうんですね。そういう話を聞いてると面白くて、僕、農業やるにしても必ず6次産業とかそこまでやりたいので、小山で必ず加工場を作るとか、それにともなって飲食店を作るっていう計画があるんですけど、やっぱり新規就農っていう形がとれないとなかなか難しいっていうのと、流通とか考えるとすごく小山市って便利なんですけど、現状で、例えば壬生町の農業委員会の方とは、かなり積

極的にいろんなことを教えてくれたりとか、結城市の産業観光課の方は、直接ラインを交換していろんなことを教えてくれたりとか、そういうアクションが結構あるんですけど、小山市まだなんもないので、そうすると、自分が求められてる地域に行っちゃおうかなって思っちゃうんですね。東京には住んでても、別にそれが矢板だろうが那須だろうが、どこでも僕はいいと思ってて、自分がちゃんと仕事をして、地域の人と一緒に参加をしてくれたりとか、参加できる環境が僕は好きなんで、そこに魅力を感じないというか、これだけ電話してやっても、なにもないのって思っちゃいますね。なんでこんな耕作放棄地余ってるのに、その情報すらくれないのとか、他の地域は見せてくれたりしてくれるんですね。人にもよりますけど。それが全くないので、あれおかしいな、小山市出身だけど小山じゃなくていいかなとか。思うときって多々ありますよね。僕は作りたいんですね、やっぱね。こっちでも神楽坂で10年経ってるんで。小山市でやろうかなって思っても、そこが二の足踏んでしまうというか。じゃあ、若い子たちのためにお店作ろうかなって計画にあるけど、でもどうだろうなとか。将来性はあるのかなあとか。将来性なくても自分で作っちゃえばいいやとか、思うんですけど、やっぱ周りとの関係性とかお店って重要なので、それを構築していくことが、地域の役に立つので、そこを考えるとやっぱりまだまだ、二の足を踏んでしまうってあります。でも、作りたいってのはありますよ、小山市でやりたいなっていうの、小山市でやって小山市のブランドを作って。僕、農業を2月からはじめたんですけど、今、販売先が決まってて、東京の新宿の伊勢丹と高島屋、生姜つくってるんですけど、もう出口（注釈：販売先）は決まってるんで、あとやるだけなんで。その範囲を広げるためには、拠点が必要なんですけど、その拠点が小山市では難しいのかなと。やりたいけど、できないっていうのがやっぱり、この3か月くらいですかね。このフラストレーションであるのは現状です。

○平野委員

ありがとうございます。同じ農業関係、佐藤委員、農業ということで、ご意見あればお願いいたします。

○佐藤副委員長

佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。新規の就農、私も農家の出身ではなくて、私も実際、ほんとに小規模なんですけど、野菜を作って売ってるんですけど、新規就農支援の話は、結構、私もすごくいろいろなところに聞きまわったりしたんですけど、ここで言うのもなんなんですけど、小山市の方にそこまで親身になってって言うのは、すごい親身になって聞いてくれたんですけど、言ってることが私はすごくわかりました。小山にすごい土地があるのも知ってるし、持て余してるのも知ってるし、いろいろな農家さんが、高齢なことがあって、農業やっていない方でも、いろいろな人がそういうことは目につくくらい、土地が余ってるのは、私もすごく目につきます。前にいる海老沼さんて方なんですけど、この方はプロの農家さんで、いろいろ話を聞くと、農家さん自体も小山市に興味がないとか、そ

ういった問題もすごくあって、この話はご本人に聞いたほうがいいかと思ひまして。

○海老沼委員

運営委員の海老沼と申します。私は米麦を主体とした農業ということになるんで、野菜を生産されている方とは、やり方とか認識の仕方が違うと思うんですけども、小山市の今言われた、行政からのサポートっていうのは、正直言って弱いですよ。それはわかります。ちなみに、小貫さんは農業、なにの作物がお知りですか。

○参加者

僕は生姜です。無農薬で生姜を作ってます。

○海老沼委員

しょうがですね。それはいいと思ひます。無農薬、やはり、有機 jas の認定も受ける方向ですか。

○参加者

有機 jas とか、なかなか難しかったり最初はするので、今、ヨーロッパ規格のアイフォーム (IFORM) とかあると思うんですけども、ヨーロッパ規格のところの方と知り合いができたので、まずはそっちの民間のやつを申請してからと同時に、jas とか時間をかけてやっていこうかなと思ってます。

○海老沼委員

有機 jas、めんどくさいですよ。いま小山のブランド米、ふゆみずたんぼ米やってますけども、正直言って面倒ですけども、生産する方の意欲次第。そこらへんは変わってはありますので、あきらめずに、これをいきっかけとなって、もうちょっと行政のほうも動いてくれるかもしれませんので、できれば小山でやっていただけるとありがたい。

○参加者

以前は、2020 年かなんかに、浅野市長が、2020 年のオーガニックフォーラムで、ラムサール条約の件で話されてた時も、聞きにいたりとかしてたんですけど。あと、小山は有機の給食とかも小中で積極的にやろうみたいな動きはありますけど、ネットで調べてもそれがどこ小でどこ中なのかとか、病院とかも出てこないの。

僕は出口が決まってるからまだいいですけど。無農薬の難しいのって出口だと思うので、農業って。そういうのを学校給食とかで、自治体と協力して買い上げるとか、そういうシステムがあつて、結局そうすれば子供たちも健康ないいものが食べられるので。そっちのほうがいいんじゃないかと。先日もオーガニックフォーラム行って来たら、千葉県とか京都市は、

もう小学校中学校の米が100%有機米とか、すごいなあと思って。そういう市になればいいなって感じはしますね。

○浅野市長

小山市の場合ですね、ふゆみずたんぼということで、2012年からですかね、取り組んできたわけなんですけど、なかなか耕作面積が増えなかったという問題がありまして。ほんとに有機の取り組みについてはですね、仕切り直しが必要な時期に来ているところがございます。小山市の農業というのは、県内の中でも、非常に営農条件が良くて、かつては農業従事者も多かったということもあって。新規就農対策というものについて、なかなか問題意識が持てなかったというところはありました。ですから県北のほうは、かなり危機意識が早く、就農者を確保しないとたいへんなことになるということで、いろんな対策取り組んできたわけなんですけども。小山市の場合はほんとに、ここ数年急激にですね、将来的に農業従事者が減ってしまうんじゃないかということで、新規就農に力をいれなきゃいけないという状況に、いま立ち入ったところなんです。それでいま、なんとかですね、そこらへんのところを取り組みをしていこうと体制づくりを進めていてですね、ほんとに来年度からはですね、もう少し具体的な取り組みを開始したいなと思っているところなんですけど、役所全体がですね、市民の方の意見を聴くと、そしてそれを何とか反映させるというような姿勢というのが、やっと少しずつ芽生えてきているというところなんです。新規就農でいろんな情報を得たい、支援を得たいという方にとっては非常にまだ、支援が十分でないということから、実感されていると思いますが。今日農政関係も担当している産業観光部長、さきほども発言されてました、いらっしゃいますし、今日この意見を聴いてですね、ほんとに6次産業化ということで、将来的に流通から飲食店までということ、考えてらっしゃるといことなので、ほんとに小貫さんのような方が、小山できちんと開業できて、しっかりと商売として成り立っていただくような形にできないと、小山市の農業、そしてまちづくりというところでも、十分なものにはなっていないと考えておりますので、今後またいろいろと相談させていただき、お役にたてるような形にしていきたいなと思います。

○平野委員

ありがとうございます。それでは次の方。

○参加者

はい、すみません。私はもともと小山市の小山第三小学校のほうに、住んでいました。結婚して萱橋のほうに来ています。今、話を聞いて、正直、私、勤めが上三川なもので、あんまり小山駅って行っていないのが現状なんです。萱橋って田舎なもので、人がいないところに慣れてしまって、小山の駅前って人がいるとか来る前状況が続いています。皆さんの話を聞いてた中で、現状把握をしたらどうなのかなって思いました。西口、東口で、学生が多い

ってことなんですけれど、ほんとに学生だけが多いのか、県外に行かれている方、どんな業種、学生さんが、実際出入りしてる方たちが多いのか、西口、東口で店舗が少ないってことなんですけれど、実際の店舗ってどんな業種が多いんだろうというところ、割合であててみて、マッチングさせるって言ったらいいんですかね、そこからほんとにコアスペース、学生さん、自治医大の駅前カフェよく見かけるんですね。やっぱりそういうカフェが必要なのかとか。そういうところを見て、これから必要な業種、店舗を入れていったらいいんじゃないかと、話を聞いてて思いました。以上です。

○平野委員

ありがとうございます。担当課からご意見ありますか。

○館野商業観光課長

商業観光課館野です。実際、さきほどもふれさせていただいたんですけど、出店の関係の補助事業等取り組んではいるんですが、飲食・サービスといったところを重点的にやっているところがございます。確かに利用者の状況等踏まえながら、小山駅周辺に誘導することも、ひとつのまちづくりの関係だと思えます。いただいたご意見をもとに、今後補助制度等検討してまいりたいと思えます。ありがとうございます。

○平野委員

ありがとうございます。どなたかご意見ある方は挙手をお願いいたします。

○参加者 どうもこんにちは。関山と申します。私のほうは、起業して8年目になるんですが、もともと起業したきっかけというのが、8年前、小山市のインキュベーション施設があったんですよね。いまちようど、エクス橋のふもとにある、なるべく屋さんで店舗入ってるんですけども。そこで小山市のフォロー受けながら、起業してった。それから8年間なんとか、継続して、多少なりとも余裕出てきたかなと感じて、こういった皆さん集まるような会議も顔を出せるようになったなと思ってます。

今、小山市の現状見ると、やっぱり景気良くないよなって思うことよくあります。例えばロブレが撤退したりとか、最近だとイトーヨーカドー。一番象徴的に思うのは、みずほ銀行の小山店が、駅前にあったやつ、あそこが撤退しちゃったよというのが、如実に小山市の魅力ってどういうことを考えさせることだと思うんですよ。銀行さんが、小山市に支店を持ってない、店舗を持ってても意味がないということの、ひとつのショッキングな出来事だったのかなと思ってます。なんでそんなことになってるのかと、僕なりに思うと、小山って、富士通小山工場、当時、何年か前はすごい人で、通勤する方の需要があったと思うんですけども、それも今なかなか、小山工場に足を向ける人も少ない中、また、近年思うと小山って工場の誘致失敗してんじゃないのかなと、きつい言い方ですが思うことがあって、おもちゃ

のまちにファナックがあり、古河のほうに、日野自動車があり、小山なんでないのっていうところで、人集まんないよねというような、お金がそこに集まんないと、人も集まんない。どっちが先かわかんないですけども。そういった中で、かと言って小山って、マンション建てれば、結構人はいるじゃないですか。人口も増えてるなかで、不思議だなんて思う土地とってます。そんな中で、いろんな人の意見お聞きした中で、やっぱり、僕自身が起業のきっかけとなってインキュベーション施設があるっていうのは、大きなひとつのきっかけかなと。今、白鷗大学の方とか、若い意気揚々としてる方たちのサポートを、インキュベーション、起業とか、サテライトオフィスとかそういう感じで、盛り上げていただくような施策が、今後またできれば、いいかなと思って発言させていただきました。ありがとうございます。以上です。

○平野委員

ありがとうございます。学生というお話でしたので。

○関口委員

そうですね。ご意見ありがとうございます。小山市は確かに東京からも近く宇都宮からも近く、新幹線も通っていたり、かといって自然を無くさないような立地の良さというのが、大きな魅力だと、私自身も感じています。

その一方で、若者が多く東京のほうに転出してしまったりとか、そういった若者の転出超過みたいなのも、ご意見の中でつながっていることなのではないかと感じております。実際に小山でこれから仕事をしていきたい、働きたいっていう学生も中にはいるんですけども、やはり東京のほうに行ってしまうという、まわりの意見も聞くので、立地の良さをもっと活かしていきながら、学生のうちにできる、リノベーションのお手伝いとか、インキュベーションであったりとか、そういったことを行いつつ、学生も社会人も一緒になって何か一つ取り組めることを作ったり、なにか空き家を新しいお店に変えていったり、ひとつひとつの行動がこれからの将来につながる、将来の就職先につながるのではないかと考えております。貴重なご意見をいただいて、今後の参考にさせていただきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

○平野委員

ありがとうございました。ほかにご意見のある方挙手をお願いいたします。では、ご意見がないようなので、一度休憩を入れさせていただきます。予定通り、15:30から再開いたしますので、よろしくをお願いいたします。休憩中、小山駅周辺のまちづくりについて、小山ビデオクラブ制作「三夜通り まちから街へ」(小山駅西口 30年前の様子)のDVDを流しますのでご覧ください。

○篠原シティプロモーション課長(司会)

それでは、市民フォーラムを再開いたします。ここからはテーマ②「ウォーカブルなまちづくり」につきまして、運営委員の阿久津委員長、戎委員に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○阿久津委員長

前半戦、貴重なご意見ありがとうございました。活発なご意見たくさん出たと思います。それでは、後半戦に入りたいと思います。運営委員の阿久津です。どうぞよろしくお願いいたします。ここからは私と戎委員と一緒にやっていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。限られた時間内となるので、多くの意見交換により有意義な意見交換となりますよう、進行にご協力をお願いします。

まず小テーマ②「ウォーカブルなまちづくり」です。このテーマに関して、担当部署であるまちづくり推進課の村上課長がパッションを込めて、説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

○村上まちづくり推進課長

それでは、みなさんこんにちは。まちづくり推進課村上でございます。ただいまから、「ウォーカブルなまちづくり」につきまして、ご説明さしあげます。よろしくお願いいたします。

本日は、小山駅周辺のまちづくりとしまして、特に、西口周辺で取り組んでおりますウォーカブルなまちづくりについて、説明させていただきます。

小山駅西口周辺の現在の状況についてですが、西口地区は、小山の文化と商業の中心として発展してきた経過がございますが、人口減少の波には勝てず、小山市の中でも最も過疎化が進んだ地区になってしまいました。

近年では、小山駅中央自由通路や駅東口新駅前広場の整備によりまして、駅周辺の利便性の向上が図られました。更に、小山駅に近いという立地利便性を最大限に生かし、再開発事業等を柱としました“まちなかへの居住”の推進に力を入れている状況であります。

これらの事業によりまして、都市景観の向上やマンションへの転居による定住人口が増加するなど、一定の効果は見られるものの、大幅な人口増加とはならず、まちなか経済の活性化には至っていない状況であります。更に、小山駅周辺には、空き店舗や駐車場が目立つなど、有効的な土地活用がなされていない状況となっており、地区の賑わいが失われている状況となっております。

ご提示の図面は、駅周辺における駐車場などの低未利用地を図面に落とし込んだものですが、ご覧のとおり、かなりの面積を占めていることをご理解いただけるのではないのでしょうか？この色が染まった場所では、駐車場としての土地利用が主であり、まちなかの賑わい創出のための有効的な土地活用とはなっていない状況です。

まちなかに散在します空き店舗や駐車場の状況写真がこちらになります。

つづきまして、ウォーカブルなまちづくりとは何かということについて、説明させていただきます。

今、まちなかでは何が起きているのでしょうか？

高齢化による人口減少、空き店舗の増加、そもそも歩いている人が少ない、活気がない、人々が通り過ぎるだけの場所になっていることが課題と考えています。

全国の様々な地方都市でも、同じような状況にあると聞きますが、このような状況を踏まえ、国が、目指すべきまちづくりの方向性につづきまして、方策を示しております。

国は、人々がまちなかに集うことができるように、街路、公園、水辺、広場等の公共空間や民間の空地等を改変することで、まちなかを目的地と成り得る空間・場所とすることが必要としています。それらにより、「居心地が良く歩きたくなる」場所と変わること、様々な人材が集うことで生まれる賑わいづくりや新しいコミュニティづくりが生まれるとしています。

ウォーカブル

多様な人々の出会いや交流、そして、滞在を促進するため、イノベーションや新たな人とのつながりを創出する都市の構築が必要としています。このような取り組みを、「ウォーカブルなまちづくり」と総称しまして、積極的に推進すべきであるとしております。

ウォーカブルという言葉は、あまり、聞きなれない言葉だと思いますが、Walk と able を組み合わせた、“歩きたくなる”という造語です。ウォーカブルなまちづくりとは、まちなかを人中心の「居心地が良く歩きたくなる」場所へ転換することを念頭におきましたまちづくりのことを指すものです。

この取り組みは、人中心の豊かな生活空間を実現するだけでなく、地域消費や投資の拡大、健康寿命の延伸、孤独・孤立の防止の他、様々な地域課題の解決や新たな価値の創造に繋がります。

従来のまちづくりは、必要最低限の機能を有し、規格や基準が守られている施設を整備し、その施設自体に価値があるとされてきました。新しい考えであります、ウォーカブルなまちづくりにおきましては、社会や経済状況の変化や、価値観やライフスタイルの多様化により、整備された施設などにおきまして、人にとって居心地が良いか、人との関係性が生まれるか、魅力的、刺激的な経験ができるかといったアクティビティ、つまり、新たな活動からもたらされる価値が重要としています。すなわち、人々が巻き起こす活動がまちづくりのキーになるという考え方です。

国は、まちづくりの進め方についても、今までは、行政が中心となって区画整理や再開発を主な手法として、道路や公園をつくり、建物の不燃共同化を行うことが中心でありましたが、これからは、この図に示すポジティブスパイラルのように、

①行政と市民、企業、金融、学識者たち、まちづくりにかかわる人が、エリアのビジョン＝将来像を共有し、②社会実験や空き家のリノベーションなど、エリアでできることから始めて、それを段階的・連鎖的に継続して、③エリアの価値や持続可能性を高めることによって④土地区画整理や再開発などの大きなプロジェクトに繋げていき、実現化を目指すという考え方

に変わってわってきております。

このような考え方が柱となっている、今後のまちづくりの進め方を簡単に整理しますと、こちらになります。エリア価値と持続可能性を向上させるために、必要なことは、従来、重要とされていた空間・機能確保の開発ではなく、公民連携でのビジョンの共有、そして、多様な手法・取組みの組合せた複合的な更新への転換であるとされています。市も、そのような考え方に基きまして、まちづくりを進めております。

他市町の事例を写真で紹介します。上段は、街路の歩行者空間を活用し、ベンチ等の設置により、人が集い憩う場所となっています。中段は、広場を活用した取組みの事例になります。芝生張りの広場において、マルシェなどの開催などにより、人が集い憩う場所となっていることが伺えます。下段は、店舗等との連携により、人が集い憩う場所となるような活用がされている事例となります。このような取組みにより、まちなかを行ってみたい、行けば何かあるといったような目的地にするための取組みをウォーカブルなまちづくりとしています。

これらのまちづくりの考え方を踏まえまして、小山市では、どのような取組みをしているのか具体的に説明いたします。小山市では、国の考えに賛同し、ウォーカブルなまちづくりを共に推進するため、ウォーカブル推進都市に令和元年8月に参画いたしました。現在推進している再開発を柱としましたまちなか居住の推進と併せ、住む人、来訪する人が、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創るため、ウォーカブルなまちづくりを積極的に推進しているところであります。栃木県内では、宇都宮市、上三川町、足利市、下野市の5市町が参画しています。

現在、小山駅西口周辺で展開している具体的な事業を記載したものが、こちらです。再開発を柱としましたまちなか居住推進事業としまして、西口では、既に完成しております、城山町三丁目第一地区（サクラコモン）、城山二丁目第一地区（アトラスタワー）、そして、現在事業化に向け検討を進めている城山町三丁目第二地区になります。居心地が良く歩きたくなるようなまちなかの再生を目指しましたウォーカブル推進事業としまして、街路空間、空き地・空き家、水辺、公園等を活用しました記載の事業を展開しています。

それらの事業を展開することにより、現れてきている具体的な小山のまちなかの変化をご説明します。

清流である思川を活用しましたリバーサイドマルシェやオモヨガ等の開催、そこまでの経路である祇園城通りの沿道にある御殿広場を活用しましたピクニックマルシェ等のイベントの開催、城山公園を有効活用すべく、現在、再整備の工事を進めております。このような取組みにより、まちなかの再生に取り組んでおります。

祇園城通りの歩道部分を有効活用すべく、テーブル・イス等を設置しテラス化して、憩い・集いの場を創出する社会実験を現在継続中です。これらの取組みにより、祇園城通りを単なる通り過ぎる場所から目的地へと変革しています。この取組みが、周辺店舗にも理解の輪が広がり、当初の参加店舗が4店舗でしたが、13店舗に拡大しています。更に、そのうち新規

出店舗が4店舗となっております。

地権者と市の共同によりまず再開発事業を展開しており、サクラコモン、アトラスタワーのマンション建設が完了しております。人口増加、地域のお祭りでの子供神輿復活や地域運動会への参加等、新たなコミュニティの形成が図られるなどの効果が表れています。先の二つの再開発に続くものとしまして、現在、駅西口直近部分の地区について、権利者によりまず準備組合が設立され、事業化に向けた計画を検討中です。

また、周辺の土地利用が活発化しております。空き地、空き店舗の活用プロジェクトとしまして、まちのプロムナードの活用でありまして、飲食店であった富士屋跡地をポケットパーク化しての活用老朽建物の建替えプロジェクトとしまして、祇園城通りやみつわ通り沿線で複数のリノベーションによる活用、把握しているだけでも、8つございます。

これらの事業効果についても、少し説明させていただきます。

まず、先ほど説明しました、街路の歩道部分をテラス化することで、人々が憩い・集うことができる空間を創出するためのテラスオヤマについてですが、社会実験を5回にわたり実施しておりますが、まず、祇園城通りの歩行者数ですが、テラスオヤマは、H31.3から開始されましたが、ご覧の通り増加傾向にあります。途中の減少傾向は、コロナ禍の影響でありましたが、最近再び増加傾向にあります。

更に、参加店舗が当初4店舗でありましたが、この取組みへの理解が広がり、徐々に参加店舗が9店舗増え、最終的には13店舗になり賑わい創出に貢献しております。なお、追加されました9店舗のうち4店舗については、新出店舗となっており、空き店舗への出店が促進され、エリア価値向上に貢献しています。

再開発事業等の効果としましては、表記の通り、人口増加の効果が出ております。平成25年3月には、サクラコモンが完成し、約300名の人口増。令和2年9月には、おやまイーストクロスが完成し、現時点で約230名の人口増。令和3年4月には、アトラスタワーが完成し、現時点で約180名の人口増。限られました区域に限定されますが、まちなかにおける人口増加に大きく貢献しております。

ウォーカブルなまちづくりに期待できる効果としましては、このような取組みを展開することで、居心地が良く歩きたくなる空間が形成されることで、次の好循環が生まれることを見込んでおります。

①歩行者が増加することで、②周辺商店の売上が増加し、③新規出店希望者の増加に繋がります、④空き店舗や空き地の解消がなされ、⑤賃借料や地価の向上に繋がります。

このような好循環が生み出されることにより、エリアの価値向上と持続可能性の向上に繋がるものと考えております。このような好循環がまちなかで広がることにより、最終的には、再開発事業の実現などに繋がることも期待できます。

ウォーカブルなまちづくりの話をさせていただきましたが、市では、来訪者や居住者がまちなかを居心地がいい空間と認識することで、積極的に歩きたくなる空間にすべく事業展開していることをご理解いただけたかと思えます。そこで、まちなかの距離感を実感してもら

うために、見て貰いたいのですが、これは、皆さんも行かれたことがあると思います「小山ゆうえんハーベストウォーク」の航空写真です。ハーベストウォークの建物概形を黄色いハッチを掛けてみました。

これを、小山駅西口周辺地区の航空写真に貼り付けてみたものが、こちらになります。これをご覧いただければ、まちなかの距離感がどのようなものかご理解いただけるとと思います。思ったより、歩ける距離ではないでしょうか？

小山駅周辺において、先に述べました各種事業を推進しておりますが、一定の効果はあるものの、大幅な人口増加とはならず、まちなか経済の活性化には至っておらず、空き店舗や駐車場が目立つ状況であり、地区の賑わいが失われている状況は否めません。

そこで、小山市では、行政主導ではなく、市民・企業・行政が連携することで、様々な意見を取り入れながら、個別事業毎の地区における役割を整理し、互いの事業が作用しあい、地区全体としての効果を発揮させるために必要な“まちづくりのビジョン”を作成することが必要不可欠であると考えております。そのビジョンを取りまとめたものを、まちづくりプランとして整理したいと考えております。令和3年度と令和4年度の2か年を掛け、まちづくりプラン策定のための作業を進めているところであります。

令和3年度は、小山駅周辺の現状把握をすることで、地区の課題を抽出・整理し、多くの市民の意見を取り入れながら、プランの方向性の検討を行います。令和4年度は、その方向性に基づき、詳細なプランの検討を行う予定であります。以上でウォーカブルなまちづくりの説明を終わりにいたします。ご清聴ありがとうございました。

○阿久津委員長

ありがとうございました。まちづくりプラン策定に併せて、まちづくりアンケートを実施しましたが、その結果の速報版を皆さまに送らせていただいております。事前に皆様からご意見をいただいておりますので、事務局から、少しでもご紹介をお願いいたします。

○事務局・柿崎

それでは、ご説明をいたします。あわせて15名の方からご意見をいただいております。参加されている方のご意見は省略させていただいて、欠席者の意見を中心にご案内させていただきます。

2番目にご意見いただいた方なんですけど、ウォーカブルなまちづくりをやっていくにあたりまして、目標設定が必要ではないか、魅力がある場所をどのようにつなげていって、歩いてもらえるか、ていうところを視点をしっかり持って、まちづくり進めてもらえればっていうような意見をいただいております。

続きまして9番目に、ウォーカブルなまちづくりを期待をすることで、ご意見をいただきました。歩行者天国、歩いて目的地、どこかに行くってことで施設があったらいいのではないかと、あとは緑地があったら歩きやすいのではないかと、そういったご意見をいただいております。

ます。

33番目にいただいている方につきましては、今、新庁舎が建ってる場所があるんですが、御殿広場が隣にあるんですが、そちらのほうがすごくいい場所なので、ラーメン祭りとかピクニックマルシェとか今もやってるとこなんですけど、スポットではなく継続的にやって、もっともっと良いイベントにしてもらいたいと。ほかにも市民の皆さんから意見を募って、うまくもっと良いイベントにしてほしいと意見としていただいております。

40番目にいただいている方につきましては、周辺の人が少ないと、もっと人が集まるような取り組みを進めてほしいということで、ご提案をいただいております。

ほかに、駅前にスロープをつけてもらうことで、介護など必要な方に配慮してほしい、という意見をいただいております。

52番目にいただいている方につきましては、もっと人が駅前に集まれるように配慮して計画を進めてほしい、というご意見をいただいております。簡単ではありますが、意見の紹介とさせていただきます。

○阿久津委員長

ありがとうございました。たくさんの意見ほんとにありがとうございます。私も駅の西口ですね、商売をしてるんですけども、やはり皆さんのお声のとおり、ここ最近さみしさというところがずっと続いてました。人気のなさというものそうなんですけど、ただ、ここ数年はですね、いろんなお店を出してくれる若者とかも増えてきましたし、コロナ禍の中でいまは苦戦してるんですけども、頑張ってくれている方々もたくさんいます。さきほど前半のお話でもあったんですけども、一番の原因というのは、若い人たちが、さきほど学生さんの話もありましたけども、たまるって言い方はおかしいだろうけど、集まれる場所が非常に西口少ないというところがやっぱり、原因のひとつにあると思うんですよね。そういった意味で、このウォーカーブルなまちづくりというところで、貴重なたくさんのご意見を聴きながら、今後の参考にしながらみんなで作っていききたいなと思ってます。話の中でも、市民、企業、行政とこの3つが一緒になってやっていくところが大事だということなんですけど、まさに、いろんなまちづくり私も見てるんですけども、すごく活気あるところっていうのは、行政と民間が一緒になってまちづくりをしていくところが多いと思います。あとは、子育て世代のお母さんたちの意見というのも、たくさんとっていくことがいいことなんじゃないかなと思います。そんなところで、子育て世代代表として、戎委員ご意見あればお願いいたします。

○戎委員

あらためて運営委員の戎と申します。どうぞよろしく願いいたします。私は4人の子育てをしているものなんですけど、約20年以上前に、小山市のこと考えてみたところ、駅のほうに行って、ウォーカーブル、魅力があるところには、歩いていったんですよね。時間がかかったとしても。そう思うと、やはり駅の周辺に魅力があるところが正直減ってしまったとい

うところで、ウォーカブル、歩かないことにつながっているんだろと思いますが、実際子供が、高校3年生の子が部活を引退したので、家にいる機会が多いんですね。なにかと友達と連絡をとりあうと、どこに行くって話になって、まず駅でしょって話になって、駅に向かうんです。駅に行ったところで何をやるのかなあと、私は思うんですけど、やっぱり若者は駅に行きたがるんなあというのを、間近で聞いていると、聞こえているので、やっぱり駅周辺っていうところに、若者が集まっていく傾向があるんだなと、実際の様子だと思うんですね。また、普通の私の地域のことに関して考えていくと、ウォーカブルなまちづくりに関して、3つのポイントがあるのではないかなと思うんですが。

1つ目は、歩いて体を動かすことによって、運動不足解消になることで、ポジティブ思考に変わっていくので、それが1つ目になるのかなということ。2つ目は目で見て、周辺の現実や実態を把握して確認が出来るってことで、少しまずいなってところは協力できるって目線に変わっていくのかなと気がするのと、3つ目は車を使わないことで、CO2削減につながっていき、環境にやさしくて、これを持続していきたいなって思えるのではないかなと思うんですね。この3つを掲げて市全体の方が取り入れていくことで、市民全体の一体感につながって、お互いの地域の情報の共有や、改善などの力を貸しあい、協調とか調和とか、そういうことで、お互いのすみやすいまちづくりにつながっていくのかなと、思いますし、そういう意味で地域、地域の、パートナーシップが築きあげられるのではないかなと思います。以上です。ありがとうございました。

○阿久津委員長

ありがとうございました。それでは、さっそく、参加者の皆様と意見交換させていただきます。また、適宜浅野市長からご意見をいただき、市側から補足説明やご意見をいただきます。それでは、発言をされる方だけかいらっしゃいますか。

○参加者

さきほどはありがとうございました。阿久津さんががんばってください。さきほど話しましたように、今日の参加者の中にも新都心、駅降りたらすぐスーパーアリーナがある、そういう非常に格納のある施設があるとお話したんですが、実は私とも商工会議所の活性化委員会でも、新潟県長岡市、駅前の再開発、アオーレ長岡を視察したんですが、そこは駅前に市役所移転して、さらにスーパーアリーナがあって屋根付きの広い広場がある。非常に理想的な施設だったんですね。ただ莫大なお金もかかるし、そういう意味では市役所も、新しく小山市にできたところで。私が前から思っているのは、そこに文化センターですか、現在非常に耐震問題とか、音響、また入場者数の問題とかある中で、これを駅東に移転して、そこを文化と教育の核になって、そこに屋根付きの広場を作り、その運営に関しては、長岡の例なんですけど、市民とか学生たちが運営しているという。その空いた部分を運営しながら、みんなで共用して市民の集う場所になってる。非常に良かった場所なんですね。今回もしよければ、

ぜひ市長さんに、駅東再開発事業の中で、もう一度、文化センターを移設するとか、非常に問題大きいと思います。JRの貨物跡地、またイトーヨーカドー跡地、ヤマダ電機さん。いま一番チャンスだと思いますのは、ヨーカドーが空いてると、地権者空きビルのままでいいかどうかって問題もありますし、ちょうど耐震を含めて、前勉強会に来た、都市整備の部長さんの話ですと、国交省の補助金も文化センターならおりの可能性がありますよって話を聞いたんですね、これはいますぐできる話じゃないんですが、やはりどっかでスタートしないと永遠に開発はできません。さきほどほんとに懐かしいロブレのビデオ見ました。あの時も、たいへんな時間とお金がかかったんですね。そういう意味では今からスタートして、JRなり地権者とゆっくり話して、われわれの意見を入れてすばらしい東口を作っていただければ、小山の顔としては最高、われわれの子供の世代にも誇れる、素晴らしいまちになるかと思います。難しい問題多々あると思うんですが、ぜひ市長さんよろしく願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。難しい問題多々あると思うんですが、市長さんお願いしますということなんで、市長一言よろしく願いいたします。

○浅野市長

文化センターにつきましては、ほんとに老朽化が進んでまして、耐震補強工事をですね、近々にやらなきゃいけないような、状況になってます。耐震補強すると言っても、億単位のお金がかかるという中で、この状況で、文化センター耐震補強していくのか、それともいまお話があったような形でどこか、例えば東口とかに、移転を考えていくのか、ほんとにここ数年の内に、決断をしなければいけない状況なわけですが、ほんとにロブレを作るときもたいへんだったように、東口に仮に移転ということになった時には、いろんな条件・問題をクリアしていかない限り、なかなかすぐ実現することができないということは明らかですので、市民の皆さんのご意見を伺いながら、そしてまた関係者の皆さんのご意見を伺いながら、慎重に判断をしていかなければならいのかなと。ただほんとに、いずれにしても、今の文化センターを維持するとすればですね、早急な耐震補強必要になりますんで、時間的猶予はあまりないということは、自覚しております。そういう意味で、ここ数年の内には、結果を出していかないと考えております。

○参加者 ありがとうございます。今後ともまた地権者とか、いろんな問題あると思うんですが、ぜひぜひ前向きなご検討よろしく願いいたします。阿久津さん頑張ってください。よろしく願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。そのほか、挙手お願いいたします。前半に挙手した方でも結構で

すし、さきほどの話の中でも思ったこと、ご意見をまとめてくれ、出してくれでも構わないので。

○参加者

さきほどもお話あったと思うんですけども、小山市の一番、地形図見てもわかることなんですけど、塚原さんがおっしゃるとおり、東側ですね、現在広大な JR 貨物の空き地があるのと、イトーヨーカドーが撤退したということで、空き地がたくさんあります。ぜひ、ここらへんのところをですね、新市民会館はもちろんなんですけども、シティホテルなどいろいろ誘致するものがあると思います。前向きにご検討いただければと、あらためて意見させていただければと思います。よろしく願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。これに関してはですね、貴重なご意見として取り組んでいきましょう。次、いらっしゃいますか。

○参加者 よろしく願いいたします。私の意見としましては、いろんなイベントを開催する、広場とかですね、開催していると思うんですけども、そこからですね、そこに行くっていうのもあるんですけど、そこから例えば小山をピクニックしようみたいな、小山を歩こうみたいな、イベントも組み合わせ、小山を知ってもらおうという、例えば思川の川岸あたりをウォーキングするような、そういったのを組み合わせ、イベントのサービス券を参加してくれた人に配るとか、人を集めて、それをまた知ってもらう、歩かせてしまおうみたいな、来てもらって、歩かせてしまおうみたいな、企画があるとより知ってもらえるのではないかと思います。

あと、市長さんに質問したいのですが、よろしいですか。栃木国体が予定されていると思うんですけど、実施される見込みなんですか。今のところは。

○浅野市長

残念なことに三重国体が中止になってしまいましたが、栃木のいちご一会とちぎ国体は来年の秋ということでございますので、おそらく、観客ありの状態で開催できるのではないかと。

○参加者 お調べしましたところ、小山市ですと空手とウエイトリフティング、水球、野球場でテニスでしたっけ、いろいろ運動場は使うようになっているので、小山駅を利用する人、そういう人たちも利用する、観客も利用すると思われるんですけど、国体が開催されるとすれば、それをターゲットにいろいろな整備をしていただければなど、思います。整備といいますか、いろいろな飾りつけとか、環境整備ですね、そういったものを考えていただければな

と思っております。よろしくお願いいたします。

○浅野市長

ほんとに国体というのはですね、今後は国体という言葉がなくなってしまうのですが、栃木県にとっては、何十年に一度という大イベントですので、全国からきていただける皆様ですね、ぜひ小山市を知っていただく、楽しんでいただく、というような形で、様々な取り組みをこれから用意していきたいと思っております。

○参加者

ありがとうございます。

○阿久津委員長

続きまして挙手お願いいたします。

○参加者 お時間いただいてご発言させていただきます。ウォーカブル、歩くってことなんで、難しい部分あるんですが、戦略的にですね、市民を歩かせるのか、外部の人を引き連れて歩かせるのかってことで、方法違うと思うんですね。両方だっていうと、議論がまた違ってきちゃうということあるので、次回とかまた機会をいただいて、委員会とか、逆に言うとプロジェクトチームを立ち上げて、外から連れてくる、外部から連れてくるときは、こういう感じ、中の市民でやってくときはこうだっていうのも、戦略が違ってくるので、せっかくのこの時間も戦略のずれでまた、議論が違ってきちゃうのかなって感じてます。ひとえに秋葉原でいけば、電気のまちってところから、オタクのまちってなってますけど、小山っていうとそこがやっぱりぶれてるっていうか、何っていうのがないって思うんですね。スポーツのまちってするんであれば、eスポーツとかあるんですけども、これも引っ込み思案であまり来てくれないのかなと思いきや、逆に活発化してる、世界でも注目されてるとこもあるので、逆に先どった形ですね、にしてくとか、いろいろ戦略を立てて、今風な部分とまた温故知新で、若い人からお年寄りまで、ウォーキングできるような、街並み、仕組みをしていけたらいいのかなと思いました。ありがとうございます。

○阿久津委員長

平田さんありがとうございます。この件に関してはですね、市のほうで、さきほどの話にあったんで、いいですか、何か答えていただいても。

○村上まちづくり推進課長

まちづくり推進課長、村上でございます。貴重なご意見ありがとうございます。戦略的にターゲットをどこにするかという話はとても貴重に重大な問題だと把握しております。現在

の考え方の中では、小山市民はもちろんのこと、小山駅、直近の部分ということもありますので、鉄道・コミュニティバス等の公共交通を利用し、広域的に小山駅周辺、西口周辺をあるってもらような戦略をかけていきたいと考えてございましたが、確かに外からくる方、市内に住んでる方、作戦のかけ方が違うと思いますので、そこらへんも念頭におきまして検討進めていきたいと思います。ありがとうございます。

○阿久津委員長

大丈夫でしょうか。では次の方。

○参加者 よろしいでしょうか。築田です、よろしく願いいたします。まず最初に、私自身のことをお話させていただきますと、もともと神戸の出身で、約30年前に結婚して小山市に住むようになりました。ただですね、この30年のうち、3分の2、20年くらいは、小山市内で自分の専門性を活かせる仕事ができなくて、東京、大阪、札幌、仙台などに住んでまいりました。けれども、何が言いたいかといいますと、今言いました都市はですね、いわゆる政令指定都市という大都会ばかりなんです、私も最初小山に住み始めたころは、何もないところだなと思っていたのですが、いま言いました都市に住んできた中でも、小山一番いいと思っています。なので、さきほど、1番関山さんのご発言でしたかね、何にもないないって言いながら、駅前にマンション建てれば、人が入って人口も増えるっていうのは、私はわかります。この気持ちがですね。ただ、なんで小山がそんなにいいのかっていう説明はもうとっても長くなるので、省略しますけれどもとにかくとっても、小山を魅力を感じているっていうことをお伝えしたいと思ったのが一つ。それから、もう一つですね、皆様のお話を伺っていて、聞きたいなと思いましたのが、まちづくり、ウォークアブルということにしましても、箱物の話題が多かったと思うんですね。人間の活動はですね、文化的な活動は屋根があるところであるものですから、もちろん箱物も大切なんです、ただ、やっぱり、人間が作れない、小山っていう、小山の土地が持つポテンシャルですね、土地の力っていうものをもっと発信する方法も考えたらいいのかなと思います。これはですね、たまたま思川温泉でしたかね、温泉に入ってるときに、地元の農家をしてると思われる女性の方がおっしゃって、すごく私なるほどって思ったんですけども、小山っていうのは日本の真ん中であって、北海道の作物から沖縄の作物まで、みんなとれるんだ、なんでもとれるんだ、はははって笑ってらしたのがあって、ほんとに食材が豊かですね、農作物の豊かさや、小山和牛、おとん、豚、鳥も多分あると思うんですが、食材が非常に豊富にあるところ、気候が非常に安定していて、郊外ですごせる時間がとっても、期間も時間も長いということ。それから、景色ですね、関東平野の真ん中であって、北を見れば日光から那須連山、南を見れば富士山があって、東を見れば筑波山が見えて、西を見れば、私、マンションの高層階に住んでいるんですが、条件が良ければ、西のほうに浅間山のほうまで見えるわけなんですよね。風光明媚で、ほんとに気候が温暖な小山で私たち生きる、とっても大切な食材

が地元でほぼ完結、小山ビールまでできたりしてお酒ももちろんたくさんありますし、そういうところなんだっていう発信をしていく方法っていうのを考えていけばいいのかなと思いました。すいません、長くなりましたが以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございました。小山のいいところ、たくさん述べていただいたところで、私なんかも、小山のいいところ何って聞かれると、こんなにたくさん言えないです。私も使わせていただきます。ありがとうございます。続きまして行きましょう。

○参加者 いまの前の方の発言ですけども、確かに小山の魅力ってたくさんあると思うんですね。その中でも小山市のホームページの中に、交通アクセスば抜群のまちというのが一つ、もう一つは、水と緑と大地の豊かな自然と歴史・文化の調和するまちとうたってるんです。この大きな2つの柱ですね、ホームページにありましたんで、すごく気になったんですけど、これをどれだけ活かしてるのかっていうのがすごく気になって。私の視点からすると、他の方の事前の意見にもありましたけどやはり、交通の要衝って便利なんだけど、通過点とか、なかなか活かされてないっていうところが、大きいと思うんですね。それをつなぐ、いろいろなかたちでつなぐことが大事、大きな点になってしまいますが大事で、その中の一つとして、私があのも多分今日のテーマの3つ目のその他に入るのかもしれないですが、宇都宮とか富山市でやられてる、LRT じゃなくて BRT ですね。こちらで実現できないかなというように思ったんですね。要するにバスをはやく走らせて、という話です。専用の道路を作って、専用道路をバスを走らせる。いまのおーバスの延長線上に行けるんじゃないかなと。しかも必要なところからできるということですね。東日本大震災の時に、線路が使えなくなったんだよね。そこで BRT を採用して、1年半かからずに運行がはじめられたって。すぐできて、しかも費用もそんなかからない、やりたいところからやれて、やめるときはいつでもやめられる。そういう方式だと思うんですね。その BRT を使って、うまくつなげられないかなっていうのが私の考えです。例えばですね。結城紬の絹地区と渡良瀬遊水地、ここを直結できたらすごく便利だと思うんですね。地域の人にも便利ですし、他から来た人もそれを使って、渡良瀬遊水地に行ってサイクリングできるとか、せっかくの結城紬の話が現地で聞けるとか、そういうことも可能でないかなと思ってます。そういう仕組み、もうちょっと今の発想、ちょっと変えて、ちょっとプラスして、なんかできないかなって思ってます。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ほんとに貴重なご意見ですね。いまおーバスが小山には走っております。やはりおーバスの活用の仕方とか、いまの話、BRT ですか、こういったのが導入されてくると、おーバスを単純に増やせばいいとか、いま、1週間に1本だけですので、1時間に2本とか、小山の末端までもし走らせるとかすると需要が出るのかなとか、そこらへんた

くさんいろんなご意見あると思うんですが、そこらへんの考えは市長なにかございますか。

○浅野市長

私が高校生くらいまでですかね、私は乙女に住んでますので、駅は間々田を使ってたんですけれども、間々田と小山の間の東武のバス、関東自動車のバスが走ってました。ですからほんとに、バスって日常的に皆さん利用してたんですけれども、東武のバスは新古河くらいまで行きました。小山と栃木の間も、バス、定期便があったと思うんですが、それがいつの間にかだんだん無くなってしまって、自分で車を運転しないと移動ができないような状況になって、そして最近おーバスがですね、最初は乗る方も少なかったと思うんですが、路線も増え、そして便も増えということで、ほんとに定着してきて、よくバス停で人が待ってるというのを、よく見るようになってきてます。もう少し本数が増えてくると、車はやめて、通勤とか通学しようかって方がかなり、増えてくるんじゃないかと。そういうふうになってきたときに、たぶん、例えば駅までバスで行って、そっから城山公園とか御殿広場までのイベントまで、ぶらぶら歩きながら、行こうよとか、帰りにお店どっかによろうよとか、ウォーカブルということの前提として、公共交通の整備ってあるんだろうと思いますよね。おーバス昨年から、いろんな賞をいただいたりしてるんですけども、県内では、公共交通おーバスの関係では、小山市、最先端走ってますから、さきほど、大木さんのご意見にあったようにバスの活用っていうのを、ほんとに積極的にしながら、他方でウォーカブルに取り組むというような、両輪で進められたらいいのかなと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。子育て世代としてはどうですか。いまの現状に不自由なところがあったり、こうしたらいいなかって、いまのご意見をもとに、なにかありますか？

○戎委員

おーバスの活用っていうのは、子供たちは正直していませんでした。朝の早い時間帯には、使いたい時間帯のバスがないし、帰りは帰り、ちょっと8時ということで、終バスが早いので、使うことがなかったんですが、公共交通を使うことっていうのは、すごく子育てにとって、自立とか一人で生きてくためには、とっても大切なものだと思ってるんですね。なので、私は、主人が奈良県出身なもので、新幹線で故郷に帰るときは、必ずおーバスを使って、子供にお金を払わせて、こういうふうにバスに乗るんだよってことを伝えて、そういう社会勉強の一步として家庭の中で取り組ませていただいているんですね。なので、そういった利用を続けたい、子育ての世帯のお母さんかご家族の方が多くいらっしゃると思うので、そういう人たちがうまく利用できるような環境づくりを整えていただけると、子供にもうまく使ってみたらと、後押しできるんじゃないかというふうに私は思います。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。都市整備部長にも一言、いいですかね。

○須郷都市整備部長

都市整備部長・須郷と申します。さきほど、塚原さんの話の中に都市整備部長と出てたと思うんですが、そちらいま、技監ということで浅見というもので、そちらが公共交通専門なので、いろんなもっという話ができるかと思うんですが、ちょっと私のレベルでお話させていただきたいと思います。バスにつきましては、皆さん利用しやすいように、市内全域網羅しているような形で利用できるようになってはいるんですが、本数はどうしても1時間1本くらいという場所が多くて、なかなか使いやすい形にはなってません。こちらにつきましては、もっと皆さん利用できるように、本数増やしたり、あるいは朝の便、夜の便増やすですとか、取り組んでおります。また、定期券ですね、学生さん利用される方が、定期購入しやすいように、今までは四季彩館に出向かないと買えなかったとかあるんですが、10月からスマホ上でクレジットカードで購入できるよう仕組みも作りました。記者発表予定してるんですが、そのような取り組みしてます。また値段につきましても、かなり破格で定期券につきましては、7割引きくらいで出してますんで、皆さんご利用していただければと思ってます。さきほど小学生のバス利用の話もあったんですが、バス、結局、自動車利用が進んで、バス利用経営的に成り立たなくなったということで、バス、民間が撤退してしまって、小山市のおーバスということで、やっていることになって、利用者の方がない、どう使っていいかわかんないことも意見としてありまして、我々のほうといたしましても、年1回くらい、各年1回くらいになってしまうんですが、小学校に出向きまして、バスの本物を乗り付けて、子供たちがどうやって乗るか料金払って、そういうのもやらせていただいています。皆さん喜んでいただいています。そのような形で、バスについては今後とも力いれて取り組んでいきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○阿久津委員長

ありがとうございました。それでは次、手挙げてる方いらっしゃいますか。

○参加者 よろしく願いいたします。私も子育て世代なんですけれど、引っ越してくる前は、子供と一緒にバスに乗って、駅まで行って電車を見るとか、電車に乗ってお出かけすることが、日常の中に、普通に、今日はバス乗りたいよねとか気軽に乗ってたんですが、駅から離れた場所に今回引っ越してきたんですけど、バスの本数の少なさにびっくりしだんですよ。こんなに離れてるのにも関わらず、本数がほんとに少ない。また、もう一つびっくりしたのが、今、学生さんとかもパスモで定期を購入したりしてるのに、今回、おーバスってどう乗るのって。パスモで乗るもんじゃないのって思って、まずそこから子供はバスに乗って通うのが、困難というか、抵抗感じた。このバスどう乗るの、まず、バスの乗り方違ってし

まった。今回、アプリ、なにかクレジット機能を付けていただいたのはすごくもったいなかったなって、思ったんですね。どこかから来た方も、パスモでピッピッて、何か事情があったかもしれないんですけども、できればもっとスムーズに他の県外の方だったり、他の場所から来た方も、駅からバスにのってどこかとか、バスに乗ることが、もうちょっと気軽にできたんじゃないかと、今後本数が増えることはとても期待してます。せっかく新幹線も見えるので、駅に行けば、子供たちも楽しめると思うので、今後の本数の増加を期待してます。ウォーカブルなまちづくりの中で、子供と歩いたりすると、暑い、すごく木陰がなかったり、ひたすら歩くっていうのは、とてもきついんですよ。なのでもうちょっと、木陰があったり、ベンチで休憩できたり、見て楽しめるっていうのだと、やっぱり四季の花が変わっていく様子が、感じられたりとか、そういうまちづくりが出来たら、子供たちも楽しめる、子育て世代も楽しめるのかなって思います。公園とかも、大きな公園が県南のほうにあると思うんですが、そこで終わりの感じなんですね。ほかにどこが公園あるんだろう、これがまた、新しくこういうものでリニューアルしましたとかなれば、あそこの公園変わったって行ってみようかってなったりするんですけど、どこか公園に行っても、近所に公園っていても、子供たちが遊べる場所が少ないんですよ、今。子供が集まるっていうのも、できないんですけども、公園行こうよとか、公園に行けば誰かど遊べるよという機会が少ないし、公園に行っても、ちっちゃい低年齢の子が遊べるようなもので、滑り台とか整備がされてる公園っていうのは、やっぱり車で親が連れてってあげないと、子供たちが遊べなかったりするんで、もうちょっと、子育て世代だったり、いろんな年代の方も楽しめるように、なるといいなと思いました。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。たくさんのご意見ほんとにありがとうございます。いろんな、今まで小山の中でなかったもの、あったものがあって、これからすごくしていくことというのが、たくさんあると思うんですけど、ずっと小山を見守っている副市長、なにかアドバイスがあれば。

○雲井副市長

いろいろなご意見いただきまして、たいへんありがとうございます。バスの、公共交通なんですけど、私ももともと小山の人間じゃないんで、大学を卒業して、小山にきて早や40年くらいたつんですが、一番最初に思ったのは、小山にきて小山の人って、なんで駐車場まで5分間歩かないのかなっていうのは、私の一番最初の感覚だったです。都内で学生生活をしてると必然的に歩くんですよ。歩かないと移動ができないもんですから、歩く。でも小山に来ると、目的の建物、目的の施設の目の前まで車で行かないと、皆さん納得されないというような、そういうまちなんだって、いま私、頭のとっぺんまでどっぷりとつかって、自覚をしてるんですが。最近思ってるのは、戎さんが最初おっしゃったみたいに、運動不足の解

消とあってウォーカブルって非常に有効なんだろうなと思うんで、なるべく、歩こうと思って歩くんじゃなくて、通勤とかなるべく用事を作って歩くようにして、健康のためにというようなことを考えてるんですけども。そういったためにはやはり、公共交通、バスとかの本数であったり、利便性、通ってくる経路、そういったものも少し、見直しをしていく必要があるのかな。いろんなご意見をいただいているのは、正直、私承知してるところなものですから、そこらへんをもう少し、皆様方によった形で、直せるようなことをこれから取り組んでまいりたいと、そんなように思っております。ぜひ、歩くことによって皆様方、車では分からない小山の魅力というのを分かっていたら、それをぜひ小山の市外の方に発信していただく、そういうような目を持ってあるいていただけるような、施策をこれからやっていければなとそんなふうに思っております。

○阿久津委員長

ありがとうございました。

○参加者 よろしく願いいたします。さきほどバスの話が出たので、1点だけ、皆様のご意見非常に賛成で、ほんといちいちごもっともで、何も言うことないかなと、拝聴しておりました。ただ、一步進んでですね、ぜひ、当たり前前の脱却からということで、駅前のウォーカブル促進ということであれば、やはり公共交通機関の発展は欠かせないのかなと。さきほど我委員もおっしゃってたように、本数が少ない、時間帯が少ない、それはもちろんなんですが、それにもう一つ付け加えまして、ぜひ、小山市民だけでもいいので、おーバスの活用を無料化してほしいと。高齢化社会もだいぶ進んでおりますので、もし高齢になって運転免許を自主返納された方なんか、例えば小山駅周辺に、行きたいなあっていったときに、毎日毎日いくら安いとはいえ、出費をするのは負担になると思うんですよね。あとは学生世代とか、もちろん県外から引っ越しされて都会から来られて、そもそも運転免許を持ってないよ、そのような方でも、気軽にバスが利用できたら、世界を想像してみたら、それも駅前に人が集まりやすいのかなと思いました。以上です。ありがとうございます。

○阿久津委員長

貴重なご意見ありがとうございました。そうですね、これに対してはさきほどと同じでやっぱり、今後考えてく課題の非常に重要なところだと思います。そういうところですね、時間のほうがちょうど、なりましたので、テーマ②の「ウォーカブルなまちづくり」については終了いたします。いったん、事務局にお渡しいたします。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

ありがとうございました。ここからは、最後になりますが、テーマ③「次回以降に取り上げて欲しいテーマ」ということで、進行につきましては、運営委員の佐藤副委員長・海老

沼委員に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○佐藤副委員長

ここからは、「次回以降に取り上げて欲しいテーマ」に移ります。運営委員の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。事前に皆様からご意見をいただいておりますので、事務局からご紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。

○柿崎事務局

シティプロモーション課柿崎です。私のほうから、意見の紹介をさせていただきます。その他の意見、さきほどバスの関係なんかもその他に入れてしまったんですが、あわせて9名の方がご意見はいただいております。やはりこちらも欠席の方中心に、ご紹介をさせていただければと思います。まず、その他ということで、今、コロナウイルス対策をしっかりと進めていただいて、外国人なんかの共生も進めていただくというような意見も1点いただいております。

続きまして、LRTみたいな電車があればいいなということで、いただいております。こちらは高岳線ですね、線路があるのでそちらを使って、そこが魅力として発信できるのではないかと、まちなかから外れてしまったので、その他に入れさせていただいてるところでございます。

欠席の方の意見は以上になりますので、あとはご参加いただいている方の意見となりますので、事務局から司会のほうにお戻しします。よろしくお願いいたします。

○佐藤副委員長

ありがとうございました。まずは、自分の意見から発言させていただきますと、今回はまずは西口からという限られたテーマをやらさせていただいたんですけど、小山市は西口だけじゃないよって、皆さん重々わかってると思うので、次回以降に取り上げて、市民フォーラムも、あと2回の中で、とりあげてほしいテーマを、好きなものをテーマなしで。例えば私ごとになっちゃうんですけども、子育て世代ではあるんですけども、自分が去年から、夏ごろから練習してるスケボーの土地が、いきなり小山市の市役所の前で、できなくなっちゃったとか、そういう軽い意見もうかがえたらなと思っております。海老沼さんよろしくお願いいたします。

○海老沼委員

運営委員の海老沼と申します。私のほうから、副委員長から話があったように次回のテーマということで、必ずしも、それがテーマとなるかわかりませんが、とりあえず今、皆様方から題材として上げてほしいという、意見というものをまず出していただいて、それを検討していきながらやっていきたいと思っております。

私個人としましてはですね、地域とか、担い手ですね、すべてにおいて。まちばの方ですと商業関係やってる方も後継者、地域・地方とか農家のほうですと農業後継者、またそういういろんな団体ですと、消防団の後継者、担い手ですね。そういうものについて、検討していただきたいとは思ってはいるんですが、皆様方の率直な意見をまず、出していただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○佐藤副委員長

では、さっそく手を挙げていただきました、35番大木さん。

○参加者 さきほどちょっと言い足りなかった部分があるんで、さきほど私が言いたかったところは、BRT なんですね。例えば新幹線の側道とか、高岳線を利用してそこにバスを走らせることができないかっていう案です。途中にたくさん駅を作る。小山から間々田の間に、駅というか停留所も作ることができる。そういう発想なんです。ハーベストのどこにももしかしたら出来るかもしれない。BRT はご存じのように、専用道路と一般道路、両方行き来ができるんで、整備できたところから利用ができるって利点があると思います。いますぐにでもできることは、あるっていうふうに考えてます。さきほど、絹地区とか渡良瀬遊水地をつないだらいいんじゃないかって話をしたんですけど、人だけじゃなくてモノも運ぶんじゃないかなと、そこで地元で生産したモノとかをそのバスにのっけてしまう。小山市の中心で、なにの駅になるかわからないですけど、そこで販売できるとかね。そういうふうに、もっと過疎地なんかで、やってるって話を聞くんですけども、小山市の中心部でも、人を運んでモノを運ぶ、情報はまた別にして、そういうことも出来るんじゃないかなって私の発想です。ぜひ、みなさんで議論いただければと思います。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

○参加者

次のテーマということだと、私、pta を9年間本部でやらせてもらってまして、阿久津さんからも平野さんからも、pta 会長さんもいらっしゃってなんですけど、常からお世話になってますけども、子育てに対して子供に対して、やっぱりどういった、小山市支援をしていくかっていうところを次のテーマというところで、思っただきないなと思っております。小さい子が単身赴任でやってきたことは、ありえませんが、やっぱり大人たち家族たちと一緒に小山に住み着いてくれるって形になってると思うんですよ。白鷗大学生だったら、都内のほうから白鷗大学に通って、電車できて、帰っていくということあるかもしれないですけども、小さいお子さんが、たぶん、100%親と同居して、ここの地域を愛してくれてるっていうふうになってくれると思うんですよね。そうして大人になってきてからも、また帰

ってくれるっていう率も高いんじゃないかなあと、いうふうに思うので、やっぱりこの子供たちの教育とか、そういったところにどれだけ、集中して安心安全なまちづくりが出来るかってところが、僕は、今後の小山の発展に。それがすべてにさきほどの駅づくりですとか、ウォーカブルだとか、にすべてにつながっていくんじゃないかなあと、いうふうに私は思ってるんです。それにですね、さきほどのおーバスの件なんですけども、私として、pta 会長やっていて、実は今年も昨年度も、スクールゾーンに危ない車がいて、警察のほうにですね、お願いしてスクールゾーンのほうの取り締まりをしていただいて、指導していただいたと、いうのがあって、そのあとに、痛ましい八街市の事故があったりとかして、あー良かったと小山は間々田がああゆう事件になくてよかったなあと、いう話をしたときに、やっぱり保護者のほうからも、どうしてもスクールバスじゃないですけど、おーバスをですね、利用したやり方ができないかなと。どうしても、スクールゾーンのところに民家なんすけども、3階建てくらい建物で、老朽化してタイルがぽとぽと落ちてくる、そこを子供たちが、児童があるかなくちゃいけない、そこをふくらませたら、車がビュンビュン通ってくる、そういう道路があったり、または千駄塚古墳があるんですけども、そこは地域の人たち、評議会の人達も、危険だと言って道をあけてくれって言うんですけど、それは地権者がいたり、なかなか道が広がるものではないので、そういったところもありますし。間々田小学校は、栗宮っていう遠いところから歩いてくるですね。そうすると夏の暑い時期、ランドセル背負って、学校に来たときは背中がびしょびしょなんですよ。そういったところも、やっぱり間々田小学校はバス停が目の前にあったり、各町内にバス停があったりするんですけど、どうしてもタイヤが子供向けのタイヤになってない。病院通ったり市役所に行くルートにはなってるんですけども、どうしても子供たちが通う、ルートにはなっていないので、実は間々田小学校 pta 会長やらせてもらってるんですけども、アンケート調査をしまして、そのアンケートをとって、この間、間々田地区 pta 連合会でもこの話をして、署名活動とかお願いしたいと、住みよい間々田っていう委員会があるんですけど、住みよい間々田の私も副もやるので、実はこういうことを間々田地区 pta 連合会でも、間々田小学が発信してやっていて、住みよい間々田でもですね、こういう話のときは、申し訳ないけど署名をしてくださいというお願いをしたので、さきほどの、おーバスの件もそうなんですけど、子供たちもお年寄りも、地域もみんなもスクールゾーンとかで使われさせてもらったり、また、生活が使ったり、また、下校の時に使ったり、回っていくといい循環になるんじゃないかなと、子供たちが安心安全で、ここで小山に戻ってまた住みたいと思ってもらえる、小山が作れるんじゃないかなって、お話聞きながら。まとめませんが、思っておりました。是非ですね、子供たちにやさしい教育に熱心なまちづくり小山ってところに、次回会議の議題として、入れていただけたらと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○佐藤副委員長

貴重なご意見というか、ものすごく熱い思いがみんなに伝わったと思います。子育て世代

の議論というものは、結構まわりからも多く、聞かしていただいたり。ここ市民フォーラムやる、ミーティングをしてる際に、次の議題は、子育て世代の意見を聴くのはどうかっていうのも出てるので、ちょっと避けては、次回はわからないけど、避けては通れないんじゃないかなとは、思っておりますが市長どうでしょうか。

○浅野市長

移住定住の促進とかの時にですね、やっぱり、一番子育て問題について、どれだけ十分な施策が小山市とってるんだらうっていうのはですね、非常に関心が高いということは、私のほうも認識しております。そして八街ですね、ああいう悲惨な事故があつて、ほんとにそのあと、市長へのメールとか市長への手紙の中で、通学路の安全確保ということについては、すごく多くのご要望いただきました。私も8月には2か所ほど道路を見に行くということをして、行ったんですけど、いずれも通学に関係のある場所でした。地元の方からするとですね、ほんとに、子供たちを安心してここ通らせることができないので、本来であれば通学路なんだけれども、今は迂回させてるとゆうようなお話を伺った場所を、2か所拝見しました。もうそのこの2か所だけじゃなくてですね、小山市内数多くの、そういう通学の上での安全性が懸念されるような場所がございます。そういうようなことも含めてですね、ほんとに、子育て問題に関しては、非常に関心が高いということ、運営委員の方と話してもそういうことは聞いておりますので、年度内2回そして、来年度も3回ないし4回くらい、こういった形の市民フォーラム開くと思うんですけども、次回ということについてはこれからまた、運営委員会の方で協議されるってことになりますんで、次回確約というわけにはいきませんが、近いうちにですね、市民フォーラムの中で子育て問題、どういう取り上げ方をすれば、1回だけですまないくらい、市民フォーラムでは、これから話合われていくテーマになると思いますんで、私のほうもですね、お答えができるような形で勉強させていただきたいなと思っております。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。

○参加者

すいません、さきほど平田さんからお話があったように、私も子育て世代なもので、今、家庭教育オピニオンリーダーというものを研修しております。その中で、他の地域の子育て支援を拝見していくと、小山市って未就園児に対してのサポートは厚いんですけども、まだまだ親の手が必要な、小学校低学年くらいのサポートが弱いんじゃないのかなって、私は思いました。話がまとまらないんですけど、今回、家庭オピニオンてところを学習させていただいて、そちらの低学年、まだ親を必要としている低学年、ましてこれからタブレットで学習することがありえる状況になっていきますので、そういったときに親がいないとまだ例

えば、家の周りのことができない小学校1年生とか、そういった子供たちを一人にしておけない母親、母親も働いていますので、そういった形でもうちょっと子育て支援、小学校低学年に重点を置いた環境づくりとか、そういったお話もできたらいいのかなと思いました。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。今日、今回の zoom に関して、たぶん zoom をやりやすいのが、70歳、60歳以下の方で、どうしても子育て支援だったりとか、前半とかにお話しがあった、若者がつまんないって言ってるというのがありまして。子育てって言っても、未就学児から高校生・大学生も入っちゃったりして、幅広い、子育てという枠があると思うんですけども、ここは副市長、急にふって申し訳ない、子育てのことに関して。

○雲井副市長

小山市にはですね、子育て支援を日本一を目指す前々から掲げております。ひとつひとつはやってると思うんですが、きっと皆様方が満足するようなものが出てない。さきほどのまちづくりの取り組みなんかもそうなんですけども、市役所、われわれ、執行部、職員が考えて、いろんなことをやってるんだと思うんですけども、もしかしたら市民の皆様の意見を聞いたほうがいいのかなと思っております。それを聴くことによって、われわれの目が変わってきて、違ったところに目が届くような、そういう施策が出来るのかなと。今日ずっと最初から聞かせていただいて、そのようなことを思いながらずっと聞かせていただいておりました。次回のテーマで子育てということやっていただけるということであれば、ぜひ、市役所の職員もそれなりの担当の職員をそろえて、ぜひ皆様の意見を聴かせていただくというような、スタンスを含めて、こういったフォーラムに参加させていただければ。すべて、その場で答えるというわけではなくてですね、今日もそうなんですけども、いただいた意見を今後の施策に活かしていけるような、そのような形で進めさせていただければ、子育て支援というような、まちづくりの一つだと思うんですけども、ここから違ったまちが見えてくるし、作れてくるだと思ってるので、大事なテーマだと思いますから、ぜひそういった取り組みもありがたいことだなと、聞きながら感じておりました。以上です。

○佐藤副委員長

急な無茶ふりをしてしまったんですけども、素晴らしいお答えが返ってきましてありがとうございます。ほかに、子育てがいま多くあがったんですけども、他にご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

○参加者

僕いつも、週に2回、明日も栃木に、小山に帰る日なんですけどもいつも小山の駅に帰る

と、たかだかと SDGs のマークがそこらじゅうにあるんですね。市長もそうですけど、SDGs とかもありますけど、いまコロナで大変な状況で、世界中がそっちに動いてるから、もちろん企業としては、のらないとやっていけないからそうなってると思うんですけど、実際持続可能とか掲げますけど、今、僕たちが生活してる、やってるつけは全部、子供にこれから確実にくるんですね、いろんなことが。それを考えなきゃいけないし、僕いま、神楽坂に住んでますけど、神楽坂も地域の取り組みってのは、多くて、ウォークブルとかもそうなんですけど、やっぱりやりたい人をまず、徹底的に集めて、反対意見をいっぱい言わせて、反対意見言ってるうちから、どんどん、みんなが賛成する反対意見が出てきて、それが結局、みんなが求めていることじゃないのって、朝までかかったり、みんなですしてるんですけど。結局子供、僕も44ですけど、どんどん歳はとっていくけど、どんどん子供たちの世代が変わって、時代もどんどん変わるので、やっぱり子供たちが、やっぱり小山っていいよなって場所を作るために、何か、例えば持続可能ってものがほんとに、必要なものだと思うし、だから僕も農業やりはじめたってあるんですけど、そういうものを含めて、学校教育とかにもとりいれてってもらうような、ことっていうのは必要かなと思います。近くのインターナショナルスクールでも、来期から授業が減って農業の授業が増えるんですね、それは週に1回農業、畑に行かせるらしいんですね。やっぱ、先生に話を聞いたら、子供のうちから持続可能とか社会環境というものを知らせるのは農業が一番だって、そこ、フランスの親の学校なんですけども、ヨーロッパでは基本的にオーガニックとか当たり前なんで、それを末端までおこすっていうので、コロナはいい機会だったって先生は言ってたんですけど。早いんですよ、やるのがとりあえず。なにかあったらそれを子供にまで持っていくってことが多かったんで、やっぱり子供のことを考えた社会づくりっていうのは、これから必須になってくるしそれが、まちの魅力にもなるんで、小山はSDGsをうたってるし、給食の有機にも名乗りを上げてるし、市長もラムサール条約のいろんなこともやってらっしゃるので、そういうことはリソースはいっぱいあるので、言うだけだったら簡単なんで、意見をやっぱり見出してそれに価値をつけるってことをどんどんやっていかないと、いけないのかなって思います。以上です。

○佐藤副委員長

ご意見ありがとうございます。有機に関して、私が意見させていただきますと、ほんとに海外のコンポストって言って、たい肥だったり、今ある資源を捨てないで、無駄にしないで、そこからまたリユースしてっていう教育ってやっぱり、海外だと進んでいるというか、当たり前というか、そういうことも、どうやったら伝えられるんだろうって、自分の子供にしか伝えられない状況だったりして、すごくいま、私はしぼりすぎて、ぜひそういう方の意見を、取り入れられる場所をまた次回じゃなくても、市民フォーラムできたらと個人的に思っております。ありがとうございます。

市民フォーラムのテーマ、そちらのことで坪野谷総合政策部長お願いいたします。

○坪野谷総合政策部長

今後のテーマという、漠然としたことで大丈夫ですか。わかりました。いま、いろいろな参加者の皆さんから、次回のテーマということでご意見ありがとうございます。

総合政策部長の坪野谷と申します。いま佐藤委員からふっていただいたんですけども、市民フォーラム担当してる部の部長をやらせていただいております。この市民フォーラムにつきましては、年間に3回ほど開催をしたいということで、今回が今年度の第1回目ということだったんですけども、2回目以降のテーマについて貴重なご意見、また事前にいただいた意見、こういったものを含めてですね、今日このフォーラムを運営していただいた運営委員の皆様と、何度も何度も会議を開きながら毎回テーマを決めていくわけなんですけども、先ほど出た、子育てのこと、そしていまちょうど出ました、持続可能なまちづくりってことですかね、SDGsを含めた持続可能なまち、一番最初にテーマとしても、開催したわけなんですけども、永遠の、今回小山市がですね、この数年間で進めているまちづくりの一番のテーマということにもなっております。ですからその辺を、今後の運営委員の皆様と、検討しながら決めていければと。またその開催にあたっては、当然皆様のマイナスの意見なども、多く聞けるような場としていくような形でやらせてもらえればと。最後に一個付け加えさせていただきますと、持続可能なまちづくりに関連して、12月に小山市では、いまのところ、開催できるという方向で、12月11・12と2日間ですね、全国菜の花サミットというものを開催して、そこで有機農業についてであるとか、持続可能なコウノトリがすむまちづくりとかを、取り上げていく予定にもなっております。そういった面も含めて、今後のテーマとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○佐藤副委員長

ありがとうございました。ほかにご意見がある方いらっしゃいますでしょうか。挙手をお願いいたします。では、ここで終了とさせていただきます。それでは、「次回以降に取り上げて欲しいテーマ」については終了いたします。進行を事務局にお戻しいたします。よろしくお願いいたします。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

ありがとうございました。閉会に当たりまして、浅野正富小山市長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○浅野市長

はじめてのご自宅にいらっしゃる市民の皆様とのオンラインでの開催ということで、最初ほんとにどんなふうになるんだろうということで、心配していたんですけども、たいへん活発なご意見をいただきまして、ほんとにありがとうございます。この小山市民フォーラム、

まだ、今日で2回目ということですので、運営の仕方につきましては、まだ試行錯誤の状況です。今回、令和3年度第1回の市民フォーラムを開催するためにですね、どんなふうに進行していったらいいんだろうということで、運営委員の方々には、何回もお集りいただいて、今日こういう形で無事終わられて、運営委員の皆様、ほんとにありがとうございました。

そして、この今日参加していただいた方、そしてオンラインになってしまったために、欠席だったわけですが、事前にご意見をいただいた方、ひとつひとつの意見がですね、皆さんしっかりと考えた上で、意見を寄せてくれていただいているということでほんとに、ありがたく思います。冒頭にもお話ししましたが、まちづくりというのは、結局、そこに住む人たちが、どれだけ本気になれるかというところで、ほんとにまちづくりの成否というのは決まってくるんじゃないかと思います。さきほど、小貫さんでしたっけ、徹底した議論が必要なんだというような、ことをおっしゃってましたけれども、私数年前に、韓国の農協の関係を視察に行かせていただいたことがありまして、1年に1回なんですけれども、全国の農協の幹部を集めて24時間会議を開くというのに立ち会ったことがございました。ほんとに、パワーには圧倒されたんですけども、そこまで徹底してやるということですね、目の当たりにして、ほんとに誰でもない自分たちがやるんだというところを、見せつけられてですね、まだまだ、私たち、足りないものがあるのかなと、思っただけ帰ってきたんですけども。小山市をほんとはよくしたい、いいまちにしたい、そこで子育てもしっかりした環境で子育てができるようにしたいと、いったときに、関わってる人たち、市民の人たちが、どれだけ本気で意見交換できるのか。当然最初の段階では、いろんな意見があっただけならのは当然なんですけども、議論を重ねていくなかで、最大公約数としてこういう形のことをしたほうがいいよねっていうのが、必ず結論として出てくるんだろうと思います。やはりそこで出てきた結論というのは、それだけ関わって、皆さんが関わって出した結論ですから、それによっていろんな事業を進めていくときに、ほんとに関わってくれた人には協力をしていただけますし、また真剣に軌道修正しなきゃいけないようなときには、意見をいただけるんだろうと思います。そういった意味では、日ごろから意見を交わすことが、すごくまちづくりの基本として、重要なことだと、市政運営のために重要なことだと考えておりますので、これからも市民フォーラムの機会を利用してですね、市民の皆さまとほんとに真剣な議論ができればと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ほんとに今日はありがとうございました。

○篠原シティプロモーション課長（司会）

ありがとうございました。それでは、最後になりますが、zoom画面上ですが、皆様と集合写真ということで、これについては広報おやま記事に掲載させていただくように、したいと思いますので、皆さん思い思い、よろしければカメラをオンにさせていただいて、なければオフでも構いませんので、これからのタイミングでポーズをとっていただければと思います。市長のほうも、カメラ映りますので。顔出し NGの方はオフにさせていただいて結構ですので、

よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは、いきまーす。はいチーズ！
ありがとうございました。

これもちまして、長時間にわたり、小山市民フォーラムありがとうございました。また、今回はじめての zoom ということで、アンケートも送らせていただきますので、開催方法などなにかございましたら、ぜひご意見をいただければと思います。本日は長時間にわたりありがとうございました。ご退出ください。ありがとうございました。